科目名	キャリア教育　1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西片　悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー／音楽プロデューサー／DJパフォーマー&トラックメーカー／レコーディング&PA	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育 2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（基本的対話スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（自己表現スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（社会的スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（サービスマインドについて）	配布プリントを記入し次回提出
13		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　3	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西片　悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　4	必修選択	必修	年次	2	担当教員	西片　悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		**実習**	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		**実習**	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　5	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	西片　悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　6	必修選択	必修	年次	3	担当教員	西片　悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
2たん			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	相原　充伸
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴6年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	授業内配布プリントの取り組みや個人スキルを加味したクラスワークでの積極性。 授業態度も踏まえた出席率。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		**実習**	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		**実習**	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育２	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	相原　充伸
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴6年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 １年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	授業内配布プリントの取り組みや個人スキルを加味したクラスワークでの積極性。 授業態度も踏まえた出席率。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（基本的対話スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（自己表現スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（社会的スキルについて）	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施（サービスマインドについて）	配布プリントを記入し次回提出
13		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		**実習**	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		**実習**	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育３	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	相原　充伸
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴６年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	授業内配布プリントの取り組みや個人スキルを加味したクラスワークでの積極性。 授業態度も踏まえた出席率。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		**実習**	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		**実習**	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育4	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	相原　充伸
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴6年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	授業内配布プリントの取り組みや個人スキルを加味したクラスワークでの積極性。 授業態度も踏まえた出席率。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　5	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	相原　充伸
学科・コース		授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴6年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　6	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	相原　充伸
学科・コース		授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	東京スクールオブミュージック専門学校教職員歴6年						
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
2たん			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育 1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。						
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
2		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践復習しレポート作成
3		講義	10年後の目標の立て理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義	5年後の目標の立て理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成。
5		講義	3年後の目標の立て理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認しレポート作成。
6		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業し理解確認しレポート作成。
7		講義	キューブを使ってのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義	パズルワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業をしレポート作成
10		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
11		講義	キューブを使ってのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
12		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	

新社会人の心得、七つの習慣

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	キャリア教育 2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。						
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	仕事を知り社会の中での自分の役割を理解し説明できる。	仕事を知り社会の中での自分の役割を理解しレポート作成
2		講義	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学び実践できる	「チームワーク力」：現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学び理解しレポート作成
3		講義	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力を学び実践できる	「働き欠け力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力を学び理解しレポート作成
4		講義	「創造力」：新しい価値を生み出す力学び実践できる	「創造力」：新しい価値を生み出す力学び理解しレポート作成
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深め説明できる	ジョブカードを用い、職業理解を深め理解しレポート作成
6		講義	【プロフィールの書き方】イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	【プロフィールの書き方】イベントを整理し、自らの経験を理解しレポート作成
7		講義	【プロフィールの書き方】自己理解を深め客観視出来るようになる	【プロフィールの書き方】自己理解を深め客観視し理解しレポート作成
8		講義	【履歴書の書き方】自分の長所・短所が伝えられるようになる	【履歴書の書き方】自分の長所・短所が伝えられるように理解しレポート作成
9		講義	基本的対話スキルについて習得し実践できる	基本的対話スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
10		講義	自己表現スキルについて習得し実践できる。	自己表現スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
11		講義	社会的スキルについて習得し実践できる。	社会的スキルについて習得し実践、理解しレポート作成
12		講義	サービスマインドについて習得し実践できる。	サービスマインドについて習得し実践、理解しレポート作成
13		講義	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受講	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受講準備
14		講義	他クラス・他セクションとのコミュニケーションを通じて学ぶ	他クラス・他セクションとのコミュニケーションを通じて学ぶ、理解しレポート作成
15		講義	試験	これらを踏まえてレポート作成
準備学習　時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	

【使用教科書・教材・参考書】
新社会人の心得、七つの習慣

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	キャリア教育 3	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。						
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作り実践する	「学生生活の基盤」を理解しレポートへまとめる。
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することができる	「主体性」を理解しレポートへまとめる
3		講義	モチベーションコントロール計画的に主体的行動がとれるようになり実践できる	モチベーションコントロールを理解しレポートへまとめる
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性をしり実践できる	「傾聴力」を理解しレポートへまとめる
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学び実践できる	「発信力」を理解しレポートへまとめる
6		講義	「傾聴力」「発信力」を実践させ行動出来る力を習得し実践できる。	「傾聴力」「発信力」を理解しレポートへまとめる
7		講義	言葉遣いやマナーを学び理解し実践できる。	言葉遣いやマナーを理解しレポートへまとめる
8		講義	自分自身の課題を発見し、解決していく力を養い実践できる。	自分自身の課題を発見し、解決していく力を理解しレポートへまとめる
9		講義	企業の方をお招きし、職種や働き方を学び実践できる。	企業の方をお招きし、職種や働き方を理解しレポートへまとめる
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学び実践できる	「計画力」を理解しレポートへまとめる
11		講義	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学び実践できる	「実行力」を理解しレポートへまとめる
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学び実践できる	「課題発見力」を理解しレポートへまとめる
13		講義	態度・マナーについて説明し、理解し実現できる	態度・マナーについて理解しレポートへまとめる
14		講義	クラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学び実践できる	クラス・後輩とのコミュニケーションを理解しレポートへまとめる
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	

【使用教科書・教材・参考書】
新社会人の心得、七つの習慣

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	キャリア教育 4	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につけ、どのような環境、状況でも成長していくことができる人をつくる。						
到達目標	業界を目指すにあたって、必ず必要となってくる社会人基礎力を身につける。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
2		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践復習しレポート作成
3		講義	10年後の目標の立て理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		講義	5年後の目標の立て理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成。
5		講義	3年後の目標の立て理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認しレポート作成。
6		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業し理解確認しレポート作成。
7		講義	キューブを使ってのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		講義	パズルワークを理解し実践できる。	七つの習慣の実践作業をしレポート作成
10		講義	自分の世界観をまとめていく方法を理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
11		講義	キューブを使ってのコミュニケーションワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
12		講義	アンケート形式、プレゼンテーションを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		講義	ハートビーイングワークを理解し実践できる。	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		講義	新社会人の心得ワークを理解し実践できる。	新社会人の心得を使用し復習しレポート作成
15		講義	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			プロになるために必要な目標設定を実行、それをレポートにし記録する。時間外で週4時間かける	

新社会人の心得、七つの習慣

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	キャリア教育　5	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース		授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育　6	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田原　佑一朗 クリス・ジャーガンセン
学科・コース		授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会（クラス）」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力（主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会（クラス）」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
2たん			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック

科目名	ミュージックセオリー 1-1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村　恵 小林　由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成
2		講義	音名を理解し言える。	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
3		講義	音名、音符、休符を理解し言える。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
4		講義	音符、休符を理解し説明できる。	音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
5		講義	拍子、複合拍子を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
6		講義	記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成
7		講義	反復記号を理解し説明できる。	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
8		講義	音程を理解し説明できる。	音程（度数の数え方、全音と半音）を復習しレポート作成
9		講義	音程を理解し説明できる。	音程（2.3.6.7度、＃♭あり）を復習しレポート作成
10		講義	音程を理解し説明できる。	音程（1.4.5.8度、＃♭あり）を復習しレポート作成
11		講義	メイジャースケールを理解し説明できる。	メイジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成
12		講義	メイジャースケールを理解し説明できる。	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
13		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成
14		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
15		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。	総復習をし、理解度を高めレポート作成
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	ミュージックセオリー 1-2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村 恵 小林 由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	中間テスト	テスト学習し、レポート作成
2		講義	奏法を理解しその説明ができる。	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習しレポート作成
3		講義	近親調を理解しその説明ができる	それぞれの調の関係性を理解し復習しレポート作成
4		講義	移調を理解しその説明ができる	五線を用いて移調を理解し復習しレポート作成
5		講義	トライアドを理解しその説明ができる	コードの概念とトライアドの構造をを理解し復習しレポート作成
6		講義	7thコードを理解しその説明ができる	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが出来るようにしを理解し復習しレポート作成
7		講義	7thコードの復習とdim7を理解しその説明ができる	トライアド、7thコード、dimコードの構造をを理解し復習しレポート作成
8		講義	転回形を理解しその説明ができる	転回形の表記方法を復習し、G-clefでの簡単なヴォイシングが出来るようを理解し復習しレポート作成
9		講義	その他のコードを理解しその説明ができる	add9、sus4、6thコードを復習し実際に弾いてを理解し復習しレポート作成
10		講義	テンションを理解しその説明ができる	9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート作成
11		講義	テンションを理解しその説明ができる	今まで習ったコードの内容を復習し、理解度を理解し復習しレポート作成
12		講義	スコアリーディングを理解しその説明ができる	総復習をし、を理解し復習しレポート作成
13		講義	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14		講義	期末テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15		講義	テスト返却、総復習	楽譜を見て、keyや雰囲気などをつかみ、表現できるようにする
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

科目名	ミュージックセオリー 2-1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村　恵 小林　由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の復習を理解し説明できる。	MTⅠ＆Ⅱの内容を復習し、理解度を高めレポート作成
2		講義	メイジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成
3		講義	メイジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音（スリーコード）と代理和音を復習理解度を高めレポート作成
4		講義	ドミナントモーションを理解し説明できる。	ドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成
5		講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組み（ナチュラルマイナー）を五線譜に書けるようし理解度を高めレポート作成
6		講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	マイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるように理解度を高めレポート作成
7		講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成
8		講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	前回までのを理解し復習レポート作成
9		講義	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーファイブ、偽終止についてを理解し復習レポート作成
10		講義	ケーデンスを理解し説明できる。	セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成
11		講義	代理コード（裏コード）を理解し説明できる。	Ｖ７の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習レポート作成
12		講義	定番コードパターンを理解し説明できる。	コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成
13		講義	クリシェを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
14		講義	パッシングコードを理解し説明できる。	パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
15		講義	中間テスト	これまでの確認
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	ミュージックセオリー 2-2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村 恵 小林 由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	代理コード（裏コードを含むダイアトニック外の代理コード）を理解し説明できる。	メイジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成
2		講義	借用和音を理解し説明できる。	マイナーキーからの借用和音を入れたコード進行をを理解し復習レポート作成
3		講義	転調を理解し説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習レポート作成
4		講義	アナライズを理解し説明できる。	楽譜と音源から楽曲分析を理解し復習レポート作成
5		講義	ヴォイシングを理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習レポート作成
6		講義	アベイラブルノートスケール（メイジャー）を理解し説明	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
7		講義	アベイラブルノートスケール（マイナー）を理解し説明	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
8		講義	ドミナントスケールを理解し説明できる。	Ｖ7に適したスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
9		講義	コードに適したスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習レポート作成
10		講義	その他のスケールを理解し説明できる。	前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成
11		講義	まとめ	復習をしを理解し復習レポート作成
12		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。	今までの内容を復習し理解度を高める　期末テストを理解し復習レポート作成
13		講義	期末予備テスト	復習、テスト対策をし期末テストに備える
14		講義	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。
15		講義	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	イヤートレーニング 1-1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村 恵 小林 由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る　リズム打ち・書き取り方について知る　音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち　3拍子と4拍子のビート感覚を養う　2線紙を使って音の高低判定　2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り　3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。
14		講義	期末テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	イヤートレーニング 1-2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村　恵 小林　由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る　リズム打ち・書き取り方について知る　音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち　3拍子と4拍子のビート感覚を養う　2線紙を使って音の高低判定　2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り　3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。
14		講義	期末テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	イヤートレーニング 2-1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村　恵 小林　由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り（CMajor）、2声メロディー、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成
2		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）、メロディー書き取り（Cminor、2声ハーモニー）、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成
3		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）、メロディー書き取り（Cminor）、3度音程の2声ハーモニー書き取り、音程ドリル　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習確認理解しレポート作成
4		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）　メロディー書き取り（Aminor、2声メロディー）　P4,P5,トライトーンのハーモニー練習　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習確認理解しレポート作成
5		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）　メロディー書き取り（16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
6		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）　メロディー書き取り（Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
7		講義	リズム打ち・書き取り（C,Gを使って）　メロディー書き取り（Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成
8		講義	リズム打ち・書き取り（C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取り、Ⅳ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
9		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（Aminor、2声メロディー）　6度音程のハーモニー練習　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
10		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
11		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（FMajor、2声メロディー）　オクターブとユニゾンのハーモニー練習　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
12		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
13		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
14		講義	リズム打ち・書き取り（タイ付き、C,G,Fを使って）　メロディー書き取り（FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー）　コードⅣ（Ⅱm）－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	総復習を行い中間テストに備え確認理解しレポート作成
15		講義	中間テスト	総復習を確認理解しレポート作成
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	イヤートレーニング 2-2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	正村　恵 小林　由佳
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(GMajor、2声メロディーは三連符導入、2声ハーモニーは2度音程導入)を理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
2		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
3		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)－Ⅴ－Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレ
4		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレ
5		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
6		講義	曲を題材にしたリズム打ち、リズム書き取り、メロディー書き取り　メロディー書き取り(6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
7		講義	前回までの内容を復習する	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成
8		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード　Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
9		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード　Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
10		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)　メロディー書き取り(Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード　Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
11		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り(Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード　Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
12		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り(Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード　Ⅰ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成
14		講義	期末テスト	総復習を行い中間テストに備える確認理解しレポート作成
15		講義	テスト返却、総復習	聴こえる音やリズムを正しく楽譜に書き、コードの響きや種類を聴き分けられる
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	PCスキルアップ1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 （1）Excelの基本的な使い方（表のデザイン、計算式）を身につける。 （2）PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 （3）Wordの基本的な使い方を身につける。						
評価方法と基準	1. レポート提出（%）：50% 2. 筆記課題（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	WindowsとMacの違いを理解する。ショートカットキーが使えるようになる。	キーボード配列を覚える。ショートカットを覚える。
2		講義	【Excel】罫線について、表の作り方を理解する。	セルの仕組みを覚え、エクセルの基本操作を覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
3		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの横軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
4		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
5		講義	【Excel】表と計算式／動員集計表を理解する。	計算式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
6		講義	【Excel】表と計算式／動員集計表が作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。。
7		講義	【Excel】表と計算式／売り上げ管理表から数字を理解出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。。
8		講義	【Excel】表と計算式／売り上げ管理表を理解する。作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
9		講義	【Excel】表と計算式／テストの平均点を理解し、作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
10		講義	【Excel】表と計算式／予算表を作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
11		講義	【Excel】表と計算式／請求書を作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
12		講義	【Excel】図形描画／イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	造形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の図形を作成する。
13		講義	【Excel】図形描画／イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
14		講義	【Excel】チケット管理表を作成することが出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
15		講義	【Excel】動員集計表を作成することが出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

インターネット＆ホームページ

科目名	PCスキルアップ2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 （1）Excelの基本的な使い方（表のデザイン、計算式）を身につける。 （2）PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 （3）Wordの基本的な使い方を身につける。						
評価方法と基準	1. レポート提出（%）：50% 2. 筆記課題（%）：50%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【PowerPoint】PPの基本仕様、Word、Excelとの互換性を理解する	スライド３枚で自分のお気に入り紹介資料を作成する。
2		講義	【PowerPoint】スライドマスタを理解し、用途に合ったスタイルを使用することが出来る	スライドマスタを理解して、マスタを５種類作る。
3		講義	【PowerPoint】挿入出来る種類の図と挿入方法を理解して、プロフィールシートを作成する	授業内で作ったプロフィールシート以外で１種類作る。
4		講義	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成：スライドを理解し、設定出来るようになる	これまで作成した資料をスライド設定させる。
5		講義	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成：アニメーションを理解し、効果的に設定できるようになる	これまで作成した資料にアニメーションを加える。
6		講義	【Excel】作業工程表の作成が出来るようになる	授業内課題に取りかかるにあたり作業行程表を作成する。
7		講義	【Word】段組、文字の回り込みを理解し、プレゼンテーション原稿を作成する	Wordの基本的な仕組みを復習るすることを目的に新聞を作成する。
8		講義	これまで学んだ総まとめとしてプレゼンテーション資料（原稿・アニメーション付）を作成する	次回プレゼンテーション発表が出来るように練習しておく。
9		講義	PC設定も自身で行い、プレゼンテーションを発表する	他人の発表を見てどのパワーポイントが効果的に伝わったかを考察し800字以内で提出。
10		講義	PowerPointとExcel・Word全てのソフトを使用し自己紹介を行うための資料を作成する。	次回の発表に向けて準備を行う。
11		講義	PowerPointとExcel・Word全てのソフトを使用し自己紹介の発表を行う。	他人の発表を見てどの資料が効果的に伝わったかを考察し800字以内で提出。
12		講義	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
13		講義	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
14		講義	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
15		講義	【PowerPoint】卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

インターネット＆ホームページ

科目名	舞台知識1(A)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】PAエンジニアコース・照明ライティングコース・舞台制作＆ステージデザイナー	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方、仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	レポート課題提出30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で 評価　70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台用語を習得する。	習った舞台用語を復習し、覚える。
2		講義	劇場/舞台という空間についての知識を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3		講義	劇場やホールの種類と形状を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4		講義	搬入・搬出方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	吊りものの種類を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6		講義	吊り方の理論を習得する。	舞台平面図にバトン位置を記入する
7		講義	照明卓の操作方法を習得する。	舞台断面図に照明バトンを記入する
8		講義	幕の吊りものの種類を取得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9		講義	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	緞帳の操作方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11		講義	舞台道具（箱馬・平台）の説明や使い方を習得する。	平台、箱馬などを図面化する
12		講義	舞台道具（トラス・バトン）の説明や使い方を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13		講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14		講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識1(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音響テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方、仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	レポート課題提出30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で 評価　70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台用語を習得する	習った舞台用語を復習し、覚える。
2		講義	劇場/舞台という空間についての知識を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3		講義	劇場やホールの種類と形状を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4		講義	搬入・搬出方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	吊りものの種類を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6		講義	吊り方を習得する	舞台平面図にバトン位置を記入する
7		講義	照明卓の操作方法を習得する	舞台断面図に照明バトンを記入する
8		講義	幕の吊りものの種類を取得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9		講義	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	緞帳の操作方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11		講義	舞台道具（箱馬・平台）の説明や使い方を習得する	平台、箱馬などを図面化する
12		講義	舞台道具（トラス・バトン）の説明や使い方を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13		講義	「明日への扉」運営・制作スタッフとして参加し、舞台を創る。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14		講義	「明日への扉」運営・制作スタッフとして参加し、舞台を創る。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識2(A)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】PAエンジニアコース・照明ライティングコース・舞台制作＆ステージデザイナー	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加により、コミュニケーションを図り仕事が円滑に出来たかを演習を通して評価　70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2		講義	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3		講義	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4		講義	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6		講義	舞台の流れ（段取り・音響の流れに関して）を習得する	PAエンジニアコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
7		講義	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8		講義	舞台の流れ（段取り・照明の流れに関して）	照明スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
9		講義	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	舞台の流れ（段取り・舞台監督の流れに関して）	舞台制作スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
11		講義	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13		講義	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れを習得する。	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14		講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15		講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識2(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加により、コミュニケーションを図り仕事が円滑に出来たかを演習を通して評価　70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2		講義	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3		講義	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4		講義	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6		講義	舞台の流れ（段取り・音響の流れに関して）を習得する	PAエンジニアコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
7		講義	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8		講義	舞台の流れ（段取り・照明の流れに関して）	照明スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
9		講義	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	舞台の流れ（段取り・舞台監督の流れに関して）	舞台制作スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
11		講義	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13		講義	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れを習得	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14		講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15		講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	ミュージックセオリー(A)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高橋　亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース・照明ライティングコース・舞台制作＆ステージデザイナー	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽理論の基礎を学ぶ						
到達目標	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について分かり易く解説するとともに、実際に楽譜が読めるように訓練する。そして現場で即戦力とされる人材を育成する。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフ	楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る　楽器ごとの音域を知る
2		講義	音名	五線に書かれた音符の音名を答え、鍵盤の位置と一致させる
3		講義	音符、休符	音符、休符の表し方が分かる　連符について知る
4		講義	拍子、複合拍子	小節線　単純拍子、複合・混合拍子　タイ、シンコペーションを理解する
5		講義	反復記号	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるようにする
6		講義	スコアリーディング	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
7		講義	中間テスト	
8		講義	メイジャースケール	メイジャースケールの仕組みを理解する （♯系メイジャースケール）
9		講義	メイジャースケール	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする　（♭系メイジャースケール）
10		講義	記譜法、臨時記号	調号と臨時記号の違いが分かる　臨時記号の効力　正しい楽譜の書き方を知る
11		講義	テンポ、強弱記号	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12		講義	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13		講義	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14		講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15		講義	テスト返却、復習	楽譜を見てKeyや雰囲気をつかむことができるようにする
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」、「ゼロから始める音楽理論　ワークブック」 喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	イヤートレーニング(A)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高橋　亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース・照明ライティングコース・舞台制作＆ステージデザイナー	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。						
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る　リズム打ち・書き取り方について知る　音の高低の判定	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるようにする
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち　3拍子と4拍子のビート感覚を養う　2線紙を使って音の高低判定　2度音程を歌い音程感を身に付ける	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り　3線紙を使って音の高低判定	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り　音程（全音と半音の区別）	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習する
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱　音程（1.2.3.8度、♯♭なし）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱ができる　音程（1.2.3.8度、♯♭あり）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
7		講義	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　音程(4,5度♯♭なし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
9		講義	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　音程（1～5度8度、♯♭あり）トライトーン	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　音程（1～5度、8、6度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　音程（1～8度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定、音程（1～8度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
14		講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15		講義	テスト返却、総復習	総復習をし、理解度を高める
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	ミュージックセオリー(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高橋　亜佑美
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽理論の基礎を学ぶ						
到達目標	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について分かり易く解説するとともに、実際に楽譜が読めるように訓練する。そして現場で即戦力とされる人材を育成する。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフ	楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る　楽器ごとの音域を知る
2		講義	音名	五線に書かれた音符の音名を答え、鍵盤の位置と一致させる
3		講義	音符、休符	音符、休符の表し方が分かる　連符について知る
4		講義	拍子、複合拍子	小節線　単純拍子、複合・混合拍子　タイ、シンコペーションを理解する
5		講義	反復記号	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるようにする
6		講義	スコアリーディング	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
7		講義	中間テスト	
8		講義	メイジャースケール	メイジャースケールの仕組みを理解する （♯系メイジャースケール）
9		講義	メイジャースケール	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする　（♭系メイジャースケール）
10		講義	記譜法、臨時記号	調号と臨時記号の違いが分かる　臨時記号の効力　正しい楽譜の書き方を知る
11		講義	テンポ、強弱記号	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12		講義	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13		講義	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14		講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15		講義	テスト返却、復習	楽譜を見てKeyや雰囲気をつかむことができるようにする
準備学習　時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」、「ゼロから始める音楽理論　ワークブック」 喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行)　株式会社滋慶教育事業部

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	イヤートレーニング(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高橋　亜佑美
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。						
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る　リズム打ち・書き取り方について知る　音の高低の判定	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるようにする
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち　3拍子と4拍子のビート感覚を養う　2線紙を使って音の高低判定　2度音程を歌い音程感を身に付ける	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り　3線紙を使って音の高低判定	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り　音程（全音と半音の区別）	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習する
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱　音程（1.2.3.8度、#♭なし）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り　新曲視唱ができる　音程（1.2.3.8度、#♭あり）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
7		講義	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　音程（4,5度#♭なし）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
9		講義	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱　音程（1～5度8度、#♭あり）トライトーン	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　音程（1～5度、8、6度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱　音程（1～8度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定、音程（1～8度）	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
14		講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15		講義	テスト返却、総復習	総復習をし、理解度を高める
準備学習　時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】
「イヤートレーニング」喜多弘悦（著）　滋慶教育科学研究所（監修）　株式会社国際教育センターCOM音楽出版（発行）　株式会社滋慶教育事業部(発売)

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	PCスキルアップ3	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】PAエンジニアコース・照明ライティングコース・舞台制作＆ステージデザイナー	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、特にテクニカルのセクションにおけるエンターティメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように進めていきます。Excel・Illustrator・Photoshopの基本的な使い方を身につけ、即戦力を目指します。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 （1）Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 （2）Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 （3）Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．.課題（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	WindowsとMacの違いを理解し、ショートカットキーを習得する。	キーボード配列を覚える。ショートカットを覚える。
2		講義	ＩＴリテラシーを理解し、ビジネスにおけるWebメールの送り方を習得する。	ITリテラシー理解度テストを行う。
3		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの横軸の作成を課題に用紙の設定を習得する。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
4		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの横軸の作成を課題にフォントとサイズの設定を習得する。	身近な印刷物で文字の大きさなどを理解することが出来るよう提示された課題をやる
5		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの横軸の作成を課題に印刷の設定を習得する。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
6		講義	【Excel】表の作り方／タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
7		講義	【Excel】図形描画／イベントシートが作成出来るようになる。	造形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
8		講義	【Excel】図形描画／ステージの簡易的な図面が作成出来るようになる。	造形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の図形を作成する。
9		講義	【Excel】図形描画／ステージの簡易的な図面が作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した図面を作成する。
10		講義	【Excel】表と計算式／動員集計表を理解する。	計算式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
11		講義	【Illustrator】基本知識と機能を理解し、等級表を作成する	基礎の仕組みを覚え、慣れておくことを目標に提示した課題の表を作成する。
12		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、表示・オブジェクト・テキスト入力を理解する	名刺に関するビジネスマナー（渡し方やおじぎ・挨拶等）を調べて資料として提出。
13		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、レイヤー・レイアウトを理解する	次回の授業に備え名刺作成時に使用するレイヤー・レイアウトを考査し決めておく。
14		講義	【Excel】「明日への扉」タイムテーブル・進行表を作成出来るようになる。	講義内容を元に資料の作成
15		講義	【Excel】復習テスト「明日への扉」ステージ図・セット図を作成する。	講義内容を元に資料の作成
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

必要に応じてプリント配布。ITリテラシー、COMポータル

科目名	音楽史(洋楽)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西田　剛
学科・コース	音楽ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ科・PAｴﾝｼﾞﾆｱ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ、舞台制作＆ｽﾃｰｼﾞﾃﾞｻﾞｲﾅｰｺｰｽ	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	2002年TSM渋谷創立時より17年、音楽史授業担当。ギタリスト、作曲家、ナレーターとしての実務歴37年。						
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、ポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。 その歴史や文化に触れ、グローバルな視点でアメリカ・イギリス中心とした英語圏におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。						
到達目標	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。						
評価方法と基準	期末テスト 70% レポート課題提出 30%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ロックミュージックのルーツを学ぶ。	ポピュラー音楽を学ぶ事＝アメリカの黒人音楽を知る～授業目的の確認 どのように学ぶのか？　授業の進め方（IT資料、音源、DVD、実演）の確認 オールディーズ資料としてアメリカングラフィティ考察
2		講義	20世紀初期のポピュラーミュージックの歴史を学ぶ	最も売れたアーチストランキング　ビートルズ、プレスリー、マイケル、マドンナ、ツェッペリンの共通点アメリカの黒人音楽を世界に広めたパフォーマー。ブルースの特徴（コード進行、１２小節）をクロスロード（ロバートジョンソン、エリッククラプトン）考察しパターンと音階を理解する。
3		講義	ロックンロールの誕生とは、	プレスリー　チャックベリー　リトルリチャードの考察中心に時代背景を交えて、アメリカ黒人音楽であるR&Rを学ぶ。また、自分のアタマで考えることを教える　　例えばメンフィスは黒人が多く住んでたと思うか？など。
4		講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動を学ぶ	ボブディランを中心にフォークソングを考察　代表曲：風に吹かれて　の歌詞の内容を時代背景とともに理解する。 また、時代は異なるが、イマジン：ジョンレノン　の歌詞の本質を学ぶ。
5		講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	ビートルズ～　イギリスアーチストのアメリカ市場への侵攻 ベビーブーム世代　当時の若者の考え方を知る。
6		講義	フラワームーヴメントとは、	フラワームーブメント、　ヒッピー、LOVE&PEACE、公民権運動、ベトナム戦争を、音楽に込められた若者のメッセージとともに説明できるようにする。
7		小テスト　講義	前半講義のポイント整理	R&Rの誕生からウッドストックまでの流れを、しっかりと理解する。
8		講義	パンクロック。ニューウエイブとは、	ロンドンパンク（セックスピストルズ、マルコム・マクラーレン、ヴィヴィアン・ウエストウッド）～ニューウエイブの流れ　と70年代のポピュラー音楽の大きな流れ（ハードロック、ファンク、レゲエ、AORなどのジャンルの確立）を対比させることができる。
9		講義	ＭＴＶの時代を学ぶ	80年代MTV　80年代ビルボードTOP１０　マイケルジャクソン「スリラー」考察 MTVのスタートによりプロモーションのあり方自体に大きな変革をもたらしたこと　シンセサイザーの発達　女性アーチストの躍進にも注目する。
10		講義	ヒップホップの誕生を学ぶ	ディスコ　ダンスクラブカルチャ（サタデーナイトフィーバーなど）の傾向を踏まえて、ヒップホップとの関連　ヒップホップの始まり（ラップ、ブレイクダンス、グラフィティ）を検証 その他、オールジャンルから超一流のアーチストが集結した「We Are The World」を考察
11		講義	21世紀の始まりを学ぶ	今世紀に入ってからのポピュラー音楽の傾向を理解する 新たなメディア（Youtube）との向き合い方を各自で考える。
12		テスト　講義	復習テスト	答えられなかった箇所を明確にする。
13		講義	進級制作展の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
14		講義	We are TSM渋谷の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
15		講義	講義内容の振り返り	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ることと、自分たちが未来に向けて発信してゆく音楽を深いレベルで考えることができる。
準備学習　時間外学習			授業内容について復習し、レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DTP1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽ナタ/ロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		

教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務
授業の学習内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンターテイメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。パソコンの理解度の向上とソフトウェアのスキルの向上を目的に、現場で役立つことに特化して学んでいきます。
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 （1）Adobe Illustratorの基本的な使い方 （2）DTPの基本的な解釈と留意点 （3）デザイン的な創作の解釈と留意点
評価方法と基準	1．データーレポート提出（%）：50% 2．.授業内課題（%）：50%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Illustrator】基本知識と機能を理解し、等級表を作成する	基礎の仕組みを覚え、慣れておくことを目標に提示した課題の表を作成する。
2		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、表示・オブジェクト・テキスト入力を理解する	名刺に関するビジネスマナー（渡し方やおじぎ・挨拶等）を調べて資料として提出。
3		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、レイヤー・レイアウトを理解する	次回の授業に備え名刺作成時に使用するレイヤー・レイアウトを考査し決めておく。
4		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、数値を入力しての正確な移動を理解する	使い方の復習を目標に提示した課題を作成する。
5		講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、印刷設定を理解する	授業内で作ったもの以外に数種類作成し提出する。
6		講義	【Illustrator】オブジェクトを使ったイラスト作成を課題に、ベジェ曲線を理解する	授業で取り組んだ同様の課題を提示し、30分以内で作成出来るようになる。
7		講義	【Illustrator】図面作成を課題にパスツールを理解する	パスの仕組みを復習し、理解することを目標に提示した課題の表を作成する。
8		講義	【Illustrator】図面を作成する	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した図面を作成する。
9		講義	【Illustrator】ロゴマークの作成を課題に、文字のアウトライン化・クリッピングマスクを理解する	フォント毎にアウトライン化された場合のオブジェクトを確認して修正する。
10		講義	【Illustrator】ロゴマークの作成を課題に、画像の配置・ライブトレースを理解する。	スキャンしたデータを読み込み、手書きの文字をライブトレースして提出。
11		講義	【Illustrator】これまで学習したスキルを使って地図を作成する。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
12		講義	【Illustrator】フライヤーの作成を課題にパス内文字ツールを理解する。	授業内容を基に様々な文字の入力方法で入力し、データを提出する。
13		講義	【Illustrator】フライヤーの作成を課題にエフェクト効果を理解する。	エフェクト効果を使った作品を作成し提出する。
14		講義	【Illustrator】「明日への扉」校内宣伝に使用するフライヤーを作成する。	作成したもので実際に校内宣伝を行う。
15		講義	【Illustrator】「明日への扉」ロビー内に展示するポスターを作成する。	作成したものを掲示し来場者の反応からどんな作品が効果的か考察する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6

科目名	DTP2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		

教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務
授業の学習内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンターテイメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。パソコンの理解度の向上とソフトウェアのスキルの向上を目的に、現場で役立つことに特化して学んでいきます。
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 （1）Adobe Illustratorの基本的な使い方 （2）DTPの基本的な解釈と留意点 （3）デザイン的な創作の解釈と留意点
評価方法と基準	1．データーレポート提出（%）：50% 2．.授業内課題（%）：50%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Photoshop】基本知識・レイヤー・デバイスからの取り込みを覚える	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を作成する。
2		講義	作品制作に合う写真素材を定めた画素数や形式を基に撮影する	作品制作課題に向けてフォトロケーションを調べて提出する。
3		講義	【Photoshop】画像解像度を理解する	画像解像度を理解し、１つの写真から72dpiのデータと350dpiのデータを作成し提出。
4		講義	【Photoshop】保存形式を理解する	保存形式によっての特徴を理解するためjpg/gif/pngで保存した画像をそれぞれ提出する。
5		講義	【Photoshop】色調補正・カラーモード・レタッチを理解する	自分で撮影した写真を使って授業内で覚えたトリミングを駆使し作品を提出する。
6		講義	【Photoshop】レタッチを理解する	本日の授業を理解した上で「雪が降っている画像」と「湯気が出ている画像」を作成し提出する。
7		講義	【Photoshop】切り抜きと合成を理解する	切り抜きのクオリティーを高めるために提示された課題を提出する。
8		講義	【Photoshop】作品（フライヤー）制作に取り組む	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を提出する。
9		講義	【Photoshop】作品（フライヤー）制作に取り組む	制作を進めて提出する。
10		講義	＜課題試験＞これまで習得した知識・技術を駆使し、ポストカードを制作する	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を作成する。
11		講義	＜課題試験＞これまで習得した知識・技術を駆使し、ポストカードを制作する	制作を進めて提出する。
12		講義	進級制作展を校内宣伝するためのフライヤーを作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内に設置してもらう。
13		講義	卒業制作展を校内宣伝するためのフライヤーを作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内に設置してもらう。
14		講義	進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する。
15		講義	卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6

科目名	Inst Ensemble 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　大志 遠藤　敬三 三井所　弘章 織原　洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Inst Ensembleの特徴を理解し実践する。	Inst Ensembleの特徴を理解し実演する
2		演習	Inst Ensembleの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	Inst Ensembleの特徴を理解し実演する
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する
13		演習	シャッフルビートの楽曲を演奏する。	シャッフルビートの楽曲を理解し実演する
14		演習	シャッフルビートの楽曲でソロをとる。	シャッフルビートの楽曲でソロを理解し実演する
15		演習	実技テスト及び前期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Inst Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　大志 遠藤　敬三 三井所　弘章 織原　洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、 ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、 キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-1 （Vocal Training 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔　可暎 橋元　美沙 齊藤　早春
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、バークリー留学コース、ザコレクティブスクールオブミュージック留学コース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする☒
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-2 （Vocal Training 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔　可暎 橋元　美沙 齊藤　早春
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、バークリー留学コース、ザコレクティブスクールオブミュージック留学コース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できるロ	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-1 （Vocal Leading 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を理解し説明ができる。。	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
13		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Ba groove analize 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。ビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	ベースという楽器を通して各音符の長さや、記号、楽譜の読みとり、曲調など音楽表現に関する体感を 積み重ねることにより、リズムと楽器の成り立ちを習得する事を目的とする。 各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に、タイム感と音感の重要性を理解し、扱う楽曲に対する理解力が 上がることで、jazzやrock、POPSなどジャンル毎にフレーズや、ビート、音色などの使いわけができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	ベースパートの重要性とスタンダード・ミディ・ファイルの取扱方法を説明する。	次の授業では音符の長さ（４分、８分、タイ記号）を取り扱うためのクリックを使用した譜面の音符の長さの練習
2		講義	４分、８分休符とタイとを使用した時の違いを説明する。	次の授業では休符（４分、８分）休符の演奏を扱うため クリックを使用し演奏の中に休符を入れる練習
3		演習	４分、８分休符の体得する。（エクササイズ）	次の授業では音楽記号を使った内容の為スタッカート記号、テヌート記号を読み取れるようにしておく。
4		講義	スタッカート、テヌート記号のグルーヴ的な違いを 説明する。	次の授業ではスタッカートやテヌートを楽譜から読み取り実際の演奏に交える練習をしておく
5		演習	スタッカートやテヌートを使用した時のグルーヴの違いを体得する。（エクササイズ）	スタッカート、テヌート、シンコペーションを見分けられるようにしておく
6		講義	アクセントの意味、シンコペーション記号の意味合いを説明する。	通常の４分、８分の演奏の中にアクセント、シンコペーションを使用し通常の4分8分の演奏との違いを理解する
7		演習	アクセント、シンコペーションを使用した時のグルーヴの違いを体得する。 （エクササイズ）	通常のベーシックリズムパターンに音程を加えて 演奏するパターンを理解しておく
8		講義	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを 説明する。	通常のベーシックリズムパターンに音程を交えて演奏した際にリズムがずれないように練習
9		演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次の授業から８ビートに入るので今まで授業でやってきた内容を確認し、苦手意識がある分野を復習する
10		講義	基本的な８ビートパターンとパターンの作り方を 説明する。	８ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いている フレーズは何ビートなのか理解する。
11		演習	基本的な８ビートのパターンを体得する。 （エクササイズ）	１６ビートの授業に入るので１６分音符をクリックに合わせて弾けるように練習
12		講義	基本的な16ビートパターンとパターンの作り方を 説明する。	１６ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。
13		演習	基本的な16ビートのパターンを体得する。 （エクササイズ）	前期を通して行った授業の中から長所を伸ばし、短所を 埋められるように練習
14		講義	前期に学んだ音楽記号やリズムを元に自分で 楽譜を作ってみる。	自分が好きなフレーズやパターンを譜面に書く練習
15		演習	１４週目に作った楽譜を自分で演奏してみる。	譜面を読解する力を養う。 また譜面を見ながらベースを弾けるようにする練習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶出版教科書、Standard Midi File、Standard Midi Player

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Dr groove maiking 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習内容	現代音楽における基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルに臨む為の基礎や、テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなリズムフィールの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	楽器構造（ドラムセット）と特有な記譜法の理解。８ビートとその歴史的背景を知る	楽器構造（ドラムセット）と特有な記譜法の復習
2		演習	８ビートにおけるキックバリエーションの実践。スネアバックビートに関する理解。	８ビートにおけるキックバリエーションの復習
3		演習	８ビートにおける４Wayトレーニングの実践。メトロノームを使用した練習の紹介。	８ビートにおける４Wayトレーニングの復習
4		演習	ハイハットワークの実践。ドラムの役割（アンサンブルスタンス）を理解する。	ハイハットワークの実践。の復習
5		演習	Aブロックフォーム（片手16）での16ビートの実践。ゴーストモーションに関する考察。	Aブロックフォーム（片手16）での16ビートの復習
6		演習	セットオーケストレーション：移動モーションの理解と実践。フィルインに関する考察。	セットオーケストレーション：移動モーションの理解の復習
7		演習	Bブロックフォーム（両手16）での16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	Bブロックフォーム（両手16）での16ビートの復習
8		演習	Bブロックフォームでのグルーヴメイクのチェック；パルスイメージの理解と実践。	Bブロックフォームでのグルーヴメイクの復習
9		演習	Cブロックフォーム（ミックス）での16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	Cブロックフォーム（ミックス）での16ビートのの復習
10		演習	Cブロックフォームでのグルーヴメイク；マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	Cブロックフォームでのグルーヴメイク；マイナスワン音源の復習
11		演習	シャッフルビートの習得。リズム構造の理解とフィールの実践。	シャッフルビートの習得の復習
12		演習	トラディショナルスタイルの理解と実践。ハネ方のニュアンスに関する考察。	トラディショナルスタイルの理解と実践の復習
13		演習	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践。ゴーストノートのコントロール。	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践の復習
14		演習	各ブロックフォームを織り交ぜた応用	各ブロックフォームを織り交ぜた復習
15		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートの復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】 滋慶出版オリジナルテキスト「DRUM GROOVE MAKING」

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Key hamonic concept 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	練習とキーボードの使用法を理解し実演す	基礎練習とキーボードの使用法を復習する。
2		演習	本のコードとコードネームを理解し実演する	基本のコードとコードネームを復習する。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを復習する。
4		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
5		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
6		演習	Bluesを理解し実演する。	Bluesを復習する。
7		講義	ースケールとダイアトニックコード１を理解し実演	ジャースケールとダイアトニックコード１を復習する
8		講義	ャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演す	ジャースケールとダイアトニックコード2を復習する
9		講義	マイナースケールを理解し実演する。	マイナースケールを復習する。
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する。	Bossa Nova Dm7-G7を復習する。
11		演習	Blues　Em riffを理解し実演する。	Blues　Em riffを復習する。
12		演習	いろいろな音色を理解し実演する。	いろいろな音色を復習する。
13		演習	イシングやレンジによる変化を理解し実演す	ォイシングやレンジによる変化を復習する
14		演習	強弱による変化を理解し実演する。	強弱による変化を復習する。
15		講義	前期の重要ポイントと復習	前期の重要ポイントと復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-2 （Key hamonic concept 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペンタトニック、オブリガートの変化を理解する。	ペンタトニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール１の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール１を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール２の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール２を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバッキングの変化を理解する。	各ジャンルでのバッキングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介１の変化を理解する。	エフェクト紹介１を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介２の変化を理解する。	エフェクト紹介２を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Vocal Leading 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を理解し説明ができる。。	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
13		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Gt chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ：マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Ba chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。（エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 (エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 (エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。 (エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		演習	１６ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	１６ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。 (エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Percussion 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		試験	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Key chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調（キー）の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
2		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調（キー）の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働き説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） またコードに割り当てるスケール例を説明できる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）説明できる。説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
15		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
準備学習　時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-2 （Vocal Leading 4）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	G　メジャースケールについて説明できる。	G　メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G　メジャースケール(1)　コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E　マイナースケールについて説明できる。	E　マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	E♭　メジャースケール。　マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	E♭　メジャースケール。　マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Gt chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Ba chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Percussion 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割（アンサンブルスタンス）を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	パーカッションとドラムの違い（楽器の仕組みや、フレーズ、背景など）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		講義	課題曲（パート分け）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
6		講義	課題曲（楽譜作成、要点説明）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	課題曲（パートごとに分かれたアンサンブル理解①）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
8		演習	課題曲（パートごとに分かれたアンサンブル理解②）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	課題曲（全パート交えてのアンサンブル理解①）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
10		演習	課題曲（全パート交えてのアンサンブル理解②）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	試験課題の整理と対策の検討	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
12		演習	期末試験を見据えての総チェック	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	期末試験実施	未達成箇所の復習
14		演習	課題曲発表	未達成箇所の復習
15		演習	後期実施事項の復習	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-2 （Key chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） またコードに割り当てるスケール例を説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明できるようになる。	Secondary Dominantの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義	テストと復習	全てのunitを確認し実演してみる。
15		講義	学んだ項目の総復習	学んだ項目の総復習
準備学習　時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Band Ensemble A-1 （Gt style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-1 （Ba style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川　俊平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-1 （Dr style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-1 （Key style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Gt style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	コーダルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏しアドリブを演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。
3		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ドリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ドリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
4		演習	演奏における音楽理論 （チャーチモード/フリジアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/フリジアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
5		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/リディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/リディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
6		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ミクソリディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ミクソリディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
7		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ロクリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ロクリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
8		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （メロディックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （メロディックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得
9		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （ハーモニックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （ハーモニックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得
10		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （ディミニッシュスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （ディミニッシュスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
11		演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。
12		演習	コードの分解と着地について説明できる。	コードの分解と着地を復習する。
13		演習	アドリブ/モーダルとコーダルについて説明できる。	アドリブ/モーダルとコーダルを復習する。
14		演習	リズミックメソッドについて説明できる。	リズミックメソッドを復習する。
15		演習	講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	講師の提示する楽譜を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Ba style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川　俊平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。						
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。
3		演習	裏拍を理解し、グルーヴを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーヴを復習する。
4		演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。
5		演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。
6		演習	ペンタトニックコードを習得し演奏する。	ペンタトニックコードを復習する。
7		演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。
8		演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。
9		演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。
10		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
11		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
12		演習	DAWの利点を習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。
13		演習	DAWを習得し演奏する。	DAWを復習する。
14		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
15		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 （Dr style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。						
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
12		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
13		演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
14		演習	LIVEを想定してのステージングを習得し演奏する。	LIVEを想定してのステージングを復習する。
15		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Key style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。						
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボイシングを変更しよりプロフェッショナルな演奏力をつける。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。
3		演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。
4		演習	dim, augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim, augコードの成り立ちを復習する。
5		演習	ダイアトニックスケールを習得し演奏する。	ダイアトニックスケールを復習する。
6		演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを復習する。
7		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
8		演習	1oct solo+バッキングを習得し演奏する。	1oct solo+バッキングを復習する。
9		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
10		演習	2oct solo+バッキングを習得し演奏する。	2oct solo+バッキングを復習する。
11		演習	midiを使っての演奏 課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使っての演奏 課題曲の楽譜作成を復習する。
12		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
13		演習	1oct solo+バッキングを習得し演奏する。	1oct solo+バッキングを復習する。
14		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
15		演習	2oct solo+バッキングを習得し演奏する。	2oct solo+バッキングを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble B-1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊 堀川　俊平 奥　出矢 土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダードの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スタンダードの特徴を理解し実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
2		演習	スタンダードの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Band Ensemble B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊 堀川　俊平 奥　出矢 土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダード楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	スタンダードバラードを分析し演奏できる。	スタンダードバラードを分析し実演する。
10		演習	スタンダードバラードをアンサンブルで演奏できる。	スタンダードバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行 http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田　隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行　http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Basic Keyboard 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	基礎練習とキーボードの使用法を理解できる	基礎練習とキーボードの使用法を実演する
2		演習	基本のコードとコードネームを理解できる	基本のコードとコードネームを理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	コード進行を理解し演奏できる	コード進行を理解し実演を録音する
5		演習	ペンタトニック、リフを理解できる	ペンタトニック、リフを実演できる
6		演習	Bluesについて理解できる	Bluesについて理解し実演する
7		演習	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習し実演する
8		演習	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習し実演する
9		演習	マイナースケールを理解できる	マイナースケールを理解し実演する
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解できる	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する
11		演習	Blues Em riffのコードを理解できる	Blues Em riffを理解し実演する
12		演習	Blues Em riffのスケールを構築できる	Blues Em riffを理解し即興できる
13		演習	ストリングスを使って演奏する。	音色の整理を行いサウンドをつくる
14		演習	オルガンを使って演奏する。	音色の理解を深めサウンドをつくる
15		演習	試験と復習	1~14をまとめたレポート作成
準備学習　時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Basic Keyboard 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シールドなど機材での音の変化を理解し実践できる	シールドなど機材での音の変化を理解し実演する
2		演習	コードの展開を理解し実践できる	コードの展開を理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実践できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	2つ以上組み合わせる音色を理解し実践できる	2つ以上組み合わせる音色を理解し実演する
5		演習	ペンタトニック、オブリガートを理解し実践できる	ペンタトニック、オブリガートを理解し実演する
6		演習	Bluesを理解し実践できる	Bluesを理解し実演する
7		演習	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実演する
8		演習	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実演する
9		演習	ソロの構成を理解し実践できる	ソロの構成を理解し実演する
10		演習	各ジャンルでのバッキングを理解し実践できる	各ジャンルでのバッキングを理解し実演する
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し実践できる	各ジャンルでのriffを理解し実演する
12		演習	ピッチベンドを使用したソロを理解し実践できる	ピッチベンドを使用したソロを理解し実演する
13		演習	エフェクト紹介1を理解し実践できる	エフェクト紹介1を理解し実演する
14		演習	エフェクト紹介２を理解し実践できる	エフェクト紹介２を理解し実演する
15		演習	試験と復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Band Ensemble 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	森本　繁来 原田　由佳
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダードの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スタンダードの特徴を理解し実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
2		演習	スタンダードの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Vocal Band Ensemble 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	森本　繁来 原田　由佳
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダード楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	スタンダードバラードを分析し演奏できる。	スタンダードバラードを分析し実演する。
10		演習	スタンダードバラードをアンサンブルで演奏できる。	スタンダードバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Vocal Performance 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野　恭平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Performance 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野　恭平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Piano Duo 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	潤　豊 小林　香央里
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Piano Duo 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	潤　豊 小林　香央里
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Song Writing 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100％						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		試験	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Song Writing 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	アレンジングを理解し説明ができる	アレンジング 復習レポート作成
2		講義	メロディーとハーモニーの関係。和声音と非和声音。コードシンボルを理解し説明ができる	和声音と非和声音。コードシンボルの復習レポート作成
3		講義	楽器グループと音域。ソロ、ユニゾン、オクターブメロディー。メロディーのアレンジメントを理解し説明ができる	楽器グループと音域の復習レポート作成
4		講義	4パートソリ。メカニカルヴォイシング（4ウェイクローズ、ドロップ2、ドロップ3、ドロップ2+4）を理解し説明ができる	4パートソリ。メカニカルヴォイシングの復習レポート作成
5		講義	4パートソリ。アプローチテクニック。ロワーインターヴァルリミットを理解し説明ができる	ロワーインターヴァルリミットの復習レポート作成
6		講義	2パートソリ、3パートソリを理解し説明ができる	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
7		講義	中間課題の説明を理解し述べることができる。	中間課題レポート作成
8		講義	中間確認試験と復習	1-8の復習レポート作成
9		講義	ヴォイスリーディングとガイドトーンラインを理解し説明ができる	ヴォイスリーディングの復習レポート作成
10		講義	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングを理解し説明ができる	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングの復習レポート作成
11		講義	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディーを理解し説明ができる	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディー復習レポート作成
12		講義	インデペンデントリード。ソリとの混用を理解し説明ができる	インデペンデントリードの復習レポート作成
13		講義	アーティキュレーション。編曲の手順、復習、詳細、そして練習を理解し説明ができる	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義	期末課題の説明を理解し述べることができる。	期末課題に向けて復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			ジャズ音楽理論の基礎と作曲方法の確認と復習を実践していく。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Dance foe Singer 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Dance foe Singer 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Composition 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大貫　和紀
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM（デスクトップミュージック）にて楽曲を完成させれるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとこを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	基本的なトライアドの理解	１２音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	１２音階のダイアトニックコード演奏 できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別し コード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。 ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドⅡmを取り入れる	リレイテッドⅡmとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲（Ⅰ-Ⅵm-Ⅳ-Ⅴ）のアナライズ	課題曲（Ⅰ-Ⅵm-Ⅳ-Ⅴ）のアナライズ
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係性を理解する
8		試験	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを３つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し３パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		試験	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Composition 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大貫　和紀
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚（明るい、暗い）の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM（デスクトップミュージック）にて楽曲を完成させれるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを３種類授業外で作成
3		演技	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		試験	ロック、バラード、ポップスの３曲 のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアナライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなど メロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演技	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演技	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演技	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演技	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演技	トラックメイカー目線でのミックスを学びり色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを実際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	J-POP Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井　康行 宇田　隆志 小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	J-POPの特徴を理解し実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
2		演習	J-POPの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	J-POP Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井　康行 宇田　隆志 小川　真司
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	J-POPバラードを分析し演奏できる。	J-POPバラードを分析し実演する。
10		演習	J-POPバラードをアンサンブルで演奏できる。	J-POPバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜

科目名	著作権1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作、PAエンジニア、照明スタッフ、楽器リペア＆テクニシャンコースト企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		

教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。 現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の基礎知識を習得し説明ができるようになる。
評価方法と基準	筆記による採点100%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	アーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	JASRACを知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	復習試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習　時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	著作権2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※マネージャー、企画、作詞、作曲などいずれも自分は誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。 上記を通して著作権の知識を習得することができる。						
評価方法と基準	筆記試験と面談。会話能力（自己表現）も評価の対象とします。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	自己紹介と講義概要の説明	第一回目の授業は講師の自己紹介と講義の概要を伝えます。最後に宿題を提示。⇒Ａ４一枚にまとめた物語を配布。５人のキャラクターが登場。好感の持てる順に並べます。その根拠をグループワークでを発表。自分の想像力と会話能力を実感させます。
2		講義	グループワーク。「創造」とは何か！を議論します	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権の第一歩は想像することであり、いかに想像力を発揮していないかを体験させます。また人間関係がいかに重要で不可欠であるかを体験させます。次回の課題として原盤権を講義。第三者からの制作依頼を想定。どのような約束
3		講義	原盤権と著作権の概念を事例を通しシミュレーションする体験教室	前回の課題をグループワークで検討。当たり前を見落としていること、契約の大切さを実感させます。現代の傾向として一般化される買い取り契約を講義。宿題として買取を求めらた場合を想定。
4		講義	プロデューサー、ディレクター、A&R、マネージャーの基本を学びます	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権及び権利譲渡について講義。そのうえでプロデューサー、Ａ＆Ｒ、ディレクター等、言葉の大切さを教えます。著作権使用料と徴収の仕組み、音楽出版社とｊａｓｒａｃの関係について講義。ある設定を提示し、ｊａｓｒａｃとの
5		講義	作家の印税収入の仕組みを学びます。JASRACと音楽出版社について等	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ｊａｓｒａｃの必要性及び問題点を講義。海外版権について講義。ある設定を提示。海外の版権を取り扱う場合の注意点を考えさせます。
6		講義	版権とその仕組みを学ぶ　～ビートルズとサンダーバードの場合～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。キャラクタービジネスが注目された６０年代をもとに権利を守ること活かすことを講義。次回の宿題として俳優のトラブルの実例を講義。どうすれば問題を回避できたか、マネージャーとは何かを考えさせます。
7		講義	もしもあなたがなマネージャーだったら！翻案権を考えます。＜女優土屋アンナの裁判事件＞	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。他人に物事を正確に伝えることの大切さを再度講義。太古の雨ごい儀式をどのようにとらえるかを考えさせます。（合理的か否か）
8		講義	雨ごいは合理的？著作権は別？論理性を考えます。	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。スポティファイと崩壊する？著作権ビジネスを考える。宿題として音楽業界の仕組みをイメージさせます。
9		講義	音楽出版社の調べ方とスポティファイを考える。自己PRを問う！	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。大きく変わる世界情勢とエンターテインメント業界を検討。今、アーティストに求められるものは何かを宿題として提示。
10		講義	世界情勢の混乱：今、アーティストのメッセージとは何か～問われる表現者の意識～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ｊａｓｒａｃの問題点を宿題として提示。
11		講義	JASRAC信託契約の落とし穴、原盤印税とは何か	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		試験	復習テスト	面談では講義へのリクエストなどを自由に述べてもらいます。
13		講義	前期のまとめ	前期のまとめ。面談結果及び今後の講義の概要を伝えます。
14		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
15		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	著作権3	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・ｺｰｽ	ニア、照明スタッフ、楽器ﾘﾍﾟｱ＆ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰ						
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、高度な著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の高度知識を習得し、説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	海外著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	海外でのアーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	英文の契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	海外の著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	海外で音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	国際的な管理会社を知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	復習試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習　時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	著作権4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。 上記を通して著作権の知識を習得することができる。						
評価方法と基準	筆記試験と面談。会話能力（自己表現）も評価の対象とします。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	著作者人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前期の総括及び後期の講義概要を説明。著作者人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし次回のグループワークとする。
2		講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するのかを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。
3		講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア（韓国と日本の演歌）の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。
4		講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優（アクター）とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。
5		講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。
6		講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト（実演家）とイベンターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。
7		講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。
8		講義	歌謡曲とJ ポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。
9		講義	ＹＯＵＴＵＢＥと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。
10		講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。
11		講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		試験と面談	筆記テストと２階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。
13		講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義
14		実習	卒業制作展での使用楽曲の著作権を確認する	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
15		実習	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考える	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	音楽史(邦楽)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田　剛
学科・コース	音楽ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ科・PAｴﾝｼﾞﾆｱ、照明ｽﾀｯﾌ、舞台制作、楽器ﾘﾍﾟｱ＆ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰｽ	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		

教員の略歴	2003年よりTSM渋谷校にて音楽史授業担当。JASRAC準会員。ギタリスト、作曲家として活動。実務歴37年。
授業の学習内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、日本におけるポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。 その歴史や文化に触れ、広い視点で日本におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。
到達目標	時代の流れに沿った、日本のロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、日本のロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。 また、進路となる日本のミュージックシーンすなわち業界の先輩となる方々の功績を学ぶ。
評価方法と基準	1）筆記試験60% 2）出席数40%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の進め方（資料、音源、DVD、実演）の確認 日本のポップスの夜明け	美空ひばり、坂本九など昭和の象徴と呼べる大御所　グループサウンズと呼ばれたブームを探る。名曲アナライズに挑戦！上を向いて歩こう（ディグリー、機能など）
2		講義	フォークの時代	吉田拓郎、井上陽水、かぐや姫などフォークの名曲を歌詞にスポットを当てて時代背景を探る 名曲アナライズ：いとしのエリー
3		講義	日本流の本格派ロック～ニューミュージック	フラワートラベリングバンド、ユーミン、CHARなど、70年代のミュージックシーンを探る 名曲アナライズ：Tomorrow never knows
4		講義	歌謡曲とロック・ポップスの融合	山口百恵、松田聖子、中森明菜など当時のアイドル文化　職業作詞家／作曲家の存在を探る 名曲アナライズ：財津和夫　サボテンの花
5		講義	ジャパニーズ・ニューウエイヴの衝撃	イエローマジックオーケストラ（YMO）を中心に日本独自のテクノポップ世界を探る
6		講義	ロックの大衆化とバンドブーム①	チェッカーズ、レベッカ、BOOWYなどと共に80年代シーンを探る メジャーデビューについて考察　　バンドブーム
7		講義	ロックの大衆化とバンドブーム②	TMネットワーク、ブルーハーツ、X JAPANなどと共に80年代シーンを探る 80年代という時代を、オーディションやCMタイアップなどから考察する。
8		講義	９０年代型ロックスターの登場①	L'Arc～en～Ciel、ドリカム、B'zなどと共に90年代シーンを探る 名曲アナライズ：TSUNAMI
9		講義	９０年代型ロックスターの登場②	LUNA SEA、GLAYなどと共に90年代シーンを探る 名曲アナライズ：グロリアス
10		講義	オルタナティヴ指向の定着とシーンの二極化	PIZZICATO FIVE、Mr.Children、椎名林檎などのアーチスト考察 名曲アナライズ：空も飛べるはず
11		講義	９０以降　多様化を謳歌する日本の音楽シーン	多様化するシーンを、Globe、MISIA、宇多田ヒカル、MONGOL 800などのアーチストと共に探る。インディーズ、アイドル文化、アニソンなど
12		テスト	筆記試験の実施	試験で不明確だった箇所を調べる。
13		講義	進級制作展の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
14		講義	We are TSM渋谷の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
15		講義	まとめ	全体のふりかえり＆未来を探る
準備学習　時間外学習			授業内容について復習しレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	イベント制作運営演習３	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・ｺｰｽ	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	イベント制作運営演習4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	ZEPPTOKYOで行われる卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要とコンセプト内容を学ぶ　制作：公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：座席管理方法を学ぶ　制作：公演演出の流れを理解し機材の管理を行う	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：運営マニュアルの作成方法を学び作成する　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学び作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアルの読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	実習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	実習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	PCスキルアップ4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習内容	1年時に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 （1）Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 （2）Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 （3）Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．筆記試験（%）：0% 3．.課題（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Premiere】基本的な概念を習得する。	基礎の仕組みを覚え、慣れておく。
2		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する。	授業で使用する音源・歌詞を用意し提出。
3		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する。	機能の復習として作品制作内歌詞を入力しておく。
4		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する。	機能の復習として作品制作内画像・動画を挿入しておく。
5		講義	【Premiere他】Illustrator・photoshopとの連携を習得する。	機能の復習として作品制作内でIllustrator・photoshopの要素を入れ込む。
6		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する。	機能の復習として作品制作内レンダリングしておく。
7		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して書き出し・仕上げを習得する。	YouTubeにてアップする。
8		講義	【Premiere】動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・QT録画を習得する。	次回の授業用に、複数人で１つの被写体を同時に録画してくる。
9		講義	【Premiere】動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する。	スローモーション、早回しをしたら良さそうな素材を撮影してくる。
10		講義	【Premiere】動画作成を課題に速度調整を習得する。	単色の背景の前での動画素材を撮影してくる。
11		講義	【Premiere】動画作成を課題にクロマキーを習得する。	クロマキー合成のクオリティーを上げた編集を再度しておく。
12		講義	【Premiere】動画作成を課題にアフレコを習得する。	作品制作のプランニングをし、絵コンテを描いてくる。
13		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（素材の回収（必要であれば撮影）））	授業内で出来なかった部分を各自進める。
14		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（動画編集）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
15		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（書き出し・盤面印刷）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

インターネット＆ホームページ

科目名	PCスキルアップ5	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習内容	1年時に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 （1）Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 （2）Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 （3）Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．筆記試験（%）：0% 3．.課題（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り（構成・作品傾向の解説）	ポートフォリオの作成の為の素材を集める
2		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り（作成に伴う効果的なエフェクトを知る）	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
3		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
4		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	カラーの印刷機で実際に使用できるように印刷しておく
5		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえチラシの作成を進める
6		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	チラシ作成を進めつつ、機能の復習も進める
7		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
8		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	月に合った素材を集めておく。
9		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
10		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえ表紙の作成を進める
11		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
12		講義	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
13		講義	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
14		講義	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
15		講義	【PowerPoint】卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

インターネット＆ホームページ・Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6

科目名	チーム制作プロジェクトC （チーム制作プロジェクト5）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	実習	新年度オリエンテーション(アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞、討論)	新入生歓迎ライブの打ち合わせ
2	実習	新入生歓迎ライブの運営・制作。	運営マニュアルの事前読み合わせ
3	演習	エンタメ施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べて提出
4	演習	エンタメ施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究を行い資料として提出
5	演習	エンタメ施設取材③(取材内容、取材方法検討)	インタビュー記事を研究し、インタビュー内容を提出
6	演習	エンタメ施設取材④(プレゼン準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表を作成し提出
7	演習	エンタメ施設取材⑤(プレゼンテーション/報告書作成)	班員にて発表シミュレーションを行う
8	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容説明、企業紹介、担当者自己紹介)	エンタメ取材報告書を作成し提出する
9	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	関わる企業を研究(歴史、理念、業務内容)し、
10	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプラン作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11	演習	企業プロジェクト④(プロモーション実践/運営マニュアル作成)	プロモーションスケジュールを作成、運営マニュアルラフ作成
12	演習	企業プロジェクト⑤☒ベント当日の運営を実践)☒	運営マニュアルの事前読み合わせ
13	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書作成)	報告会で発表する内容まとめ
14	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を	運営マニュアル作成・各セクション決め
15	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を	運営マニュアル読み合わせ
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

DVD：MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督：バーバラ・コップ)

科目名	チーム制作プロジェクトC （チーム制作プロジェクト6）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	プロジェクトの進め方の概要説明	プロフィールシートの作成
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベント実施[CIVILIAN]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
4	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]1st・[QUEENS]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベントを記録する（映像収録とWEB）の制作を学ぶ	ライブ映像の編集処理
7	演習	各ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	運営マニュアルの作成
8	演習	各ライブイベント実施に向けて（打合せ)を学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
10	演習	ライブイベント実施[QUEENS]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
13	演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]現場での動きを学ぶ	運営マニュアルの作成・読み合わせ
14	演習	オーディションイベント実施[コロムビア・オーディション]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
15	演習	オーディションイベント実施[コロムビア・オーディション]現場での動きを学ぶ	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習	授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクトC （チーム制作プロジェクト7）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岡　秀 樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価　30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価評価　40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	新年度オリエンテーション(アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞、討論)	新入生歓迎ライブの打ち合わせ
2	演習	新入生歓迎ライブの運営・制作。	運営マニュアルの事前読み合わせ
3	演習	エンタメ施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べて提出
4	演習	エンタメ施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究を行い資料として提出
5	演習	エンタメ施設取材③(取材内容、取材方法検討)	インタビュー記事を研究し、インタビュー内容を提出
6	演習	エンタメ施設取材④(プレゼン準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表を作成し提出
7	演習	エンタメ施設取材⑤(プレゼンテーション/報告書作成)	班員にて発表シミュレーションを行う
8	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容説明、企業紹介、担当者自己紹介)	エンタメ取材報告書を作成し提出する
9	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	関わる企業を研究(歴史、理念、業務内容)し、 資料として提出
10	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプラン作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11	演習	企業プロジェクト④(プロモーション実践/運営マニュアル作成)	プロモーションスケジュールを作成、 運営マニュアルラフ作成
12	演習	企業プロジェクト⑤☒ ベント当日の運営を実践)☒	運営マニュアルの事前読み合わせ
13	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書作成)	報告会で発表する内容まとめ
14	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル作成・各セクション決め
15	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル読み合わせ
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

DVD：MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督：バーバラ・コップ)

科目名	チーム制作プロジェクトD （チーム制作プロジェクト8）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	活動方針設定会議	会議資料準備
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
4	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]	イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]	イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	ライブ映像の編集処理
7	演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
8	演習	ライブイベント実施[QUEENS]	イベント実施打合せ・イベント後の終了報
9	演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
10	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]	イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]	イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベントの内容企画	企画書の作成・イベント企画打合せ
13	演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
14	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]・[QUEENS]	イベント後の終了報告書記入
15	演習	年間活動内容総括会議	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	タレントマネージメント3	必修 選択	選択	2年次	2	担当教員	片桐　豊
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	文化放送開発センター（15年）～トップコート（11年）を経て、現サテライト東京代表。タレント育成＆マネジメントやイベント・演劇プロデュースなどの実務経験が豊富。						
授業の学習内容	タレントマネジメントは、人のマネジメントです。タレントも人で有り、意思も感情もあり、仕事内容や体調など様々な要素により常に臨機応変な対応が求められます。そして、タレントはもちろん仕事関係者に何かを伝えたり、関係構築をする上で重要なのがコミュニケーション力。本授業では、実務経験に基づくタレントとの接し方や仕事への向き合い方などを伝えつつ、物事を柔軟に捉え、考え、そしてそれを言葉にできる能力を高めるべく、適宜生徒自身が発信する課題を出し、芸能界のみならず一般社会でも通用する誠実さや総合的な人間力醸成の一助となるような授業に努めたい。						
到達目標	□タレントとマネージャー（事務所）の関係や仕事の内容など業界のことを知る　□自分の強み、弱みを認識した上で将来について考えられるようになる　□見たこと、聞いたことに対し、広い視野や様々な角度から考えられる力を養う　□自分の考えたことや想いを自分の言葉で伝えられるようになる　□相手の気持ちやニーズを考えられるようになる						
評価方法と基準	□筆記試験　0点～50点　・・・一般的な企業の人事評定項目の把握とその定義や着眼点について理解する。　（企業が従業員に求めることへの理解＝社会に出て働く上ための心構え準備）　□総合的な授業態度　0点～50点　・・・出席率（目的を持って授業に出席する。気分で休まない。）　・・・授業中の態度。質問や課題に対して誠実に答えられるか。自分の考えを言語化できるか。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	自己紹介現時点での将来目標を自分の言葉で、かつ人前で発表できる。	将来タレントをどのようにマネジメントしたいのかレポート記入し提出。
2	講義	業界で働く上で必要な力を考えさせる 自分で考える。想像力を養う。	自分の目標の整理を行い800字以内で記入し提出。
3	講義	プロデューサーやディレクター、作家などの役割や感性を学ぶ。	１枚の紙で「天国」と「地獄」を表現し提出。
4	講義	芸能プロダクションの役割とタレントとの関係性について学ぶ。	タレント契約書見本（専属・業務提携・新人養成）を確認し、気づいた点やこれからの課題を800字以内に記載し提出。
5	講義	マネージャーの種類と具体的な仕事内容を知る。	自分の好きなタレントの周りのマネージャーを調べて資料を提出。
6	講義	好きなモノを語る力を付ける。好きなタレントについて語ることができる。	3分間で好きなタレントを理由・魅力などを他者にアピールするプレゼンテーションの資料を作成、準備する。
7	講義	音事協・音制連等の存在と事務所にはどんなところがあるか知る。	自分が就職したい事務所を調べて概要を提出する。
8	講義	オーディション採用側が何を見ているかを知る。	自分が就職したい事務所のスタッフ募集要項を調べて提出する。
9	講義	適正診断による性格把握と分析から自分の強み・弱みを把握する。	事前に配布する適性診断を受ける
10	講義	自己分析を踏まえ未来像を語り想像する力と伝える力を身につける。	10年後どうなっていたいか、所定のレポート用紙に記入し提出。
11	講義	興味外の事を語り、感じたことを言葉にする力を身につける　。	美輪明宏「愛の讃歌」の映像を見て感想を800字以内で記入し提出。
12	講義	人事評定項目から経営側のニーズを知る。	人事評定項目から自分がアピール出来ることを考察し800字以内で提出。
13	試験	人事評定の項目とその意味をきちんと理解・認識できているか。復習	前週に配布した人事評定表を復習しておく。
14	講義	「明日への扉」にて制作スタッフとして出演者管理を学ぶ	明日への扉の資料を復習する。
15	講義	「明日への扉」にて制作スタッフとして出演者管理を学ぶ	明日への扉の資料を復習する。
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】
実際のタレント契約書・芸能界ベストセレクション・演技テキスト・ドラマ台本など

科目名	タレントマネージメント4	必修 選択	選択	2年次	2	担当教員	片桐　豊
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	文化放送開発センター（15年）～トップコート（11年）を経て、現サテライト東京代表。タレント育成＆マネジメントやイベント・演劇プロデュースなどの実務経験が豊富。						
授業の学習内容	タレントマネジメントは、人のマネジメントです。タレントも人で有り、意思も感情もあり、仕事内容や体調など様々な要素により常に臨機応変な対応が求められます。そして、タレントはもちろん仕事関係者に何かを伝えたり、関係構築をする上で重要なのがコミュニケーション力。本授業では、実務経験に基づくタレントとの接し方や仕事への向き合い方などを伝えつつ、物事を柔軟に捉え、考え、そしてそれを言葉にできる能力を高めるべく、適宜生徒自身が発信する課題を出し、芸能界のみならず一般社会でも通用する誠実さや総合的な人間力醸成の一助となるような授業に努めたい。						
到達目標	□タレントとマネージャー（事務所）の関係や仕事の内容など業界のことを知る □見たこと、聞いたことに対し、広い視野や様々な角度から考えられる力を養う □相手の気持ちやニーズを考えられるようになる □自分の強み、弱みを認識した上で将来について考えられるようになる □自分の考えたことや想いを自分の言葉で伝えられるようになる						
評価方法と基準	□筆記試験　0点～50点 （企業が従業員に求めることへの理解＝社会に出て働く上ための心構え準備） ・・・出席率（目的を持って授業に出席する。気分で休まない。） ・・・一般的な企業の人事評定項目の把握とその定義や着眼点について理解する。 □総合的な授業態度　0点～50点 ・・・授業中の態度。質問や課題に対して誠実に答えられるか。自分の考えを言語化できるか。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	活躍している芸能人の行動から学ぶ社会で好まれる資質を知る①	松坂桃李・堺正人・山寺宏一らのエピソードを受けて感想レポートを800字以内で提出する。
2	講義	活躍している芸能人の行動から学ぶ社会で好まれる資質を知る②	TAKAHIRO氏のチャレンジのエピソードを受けての感想レポートを800字以内で提出する。
3	講義	俳優の仕事や気持ちを理解するため簡単なテキストで演技体験をする	事前に配布するA4１枚の会話台本を覚えてくる。
4	講義	同じセリフを深く追求することでタレントや俳優に求められる役割を知る。	事前に配布する独白セリフの登場人物の性格を分析した資料を提出する。
5	講義	企業のニーズを理解した上で、目指す企業に合わせた自己PRができるようになる	就活を想定した自己PRを考察し、提出する。
6	講義	企業のニーズを理解した上で、目指す企業に合わせた自己PRができるようになる	就活を想定した自己PRを考えて提出する。
7	講義	ファンクラブについての講義①　ファンイベントの企画を理解する	自分な好きなタレントらのファンイベントの例を調べて提出する。
8	講義	ファンクラブについての講義② 応援グッズ販売から見る音楽ビジネス	自分の好きなタレントらのグッズの例を調べて提出する。
9	講義	芸能界お金事情　タレントのギャラ・Mgの給与などの相場を知る	本日の授業を終えた上で、タレントクラス表を作成し、提出する。
10	講義	これから売れる（人気者になる）と思うタレントを予想・プレゼンする①	これから売れると思うタレント候補とその根拠を調べて提出する。
11	講義	これから売れる（人気者になる）と思うタレントを予想・プレゼンする①	これから売れると思うタレント候補とその根拠を調べて提出する。
12	講義	とあるディズニーダンサーのエピソードから、エンターテインメント業界で働くことの心構えを再認識する	本日の講義を終え、800字以内で感想レポートを提出する。
13	試験	前期・後期を踏まえた上での筆記試験を実施	出来なかった部分や分からなかった部分を訂正して提出する。
14	講義	卒業制作展にて制作スタッフとしての出演者管理を学ぶ。	卒業制作展の資料を復習
15	講義	卒業制作展にて制作スタッフとしての出演者管理を学ぶ。	卒業制作展の資料を復習
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】
実際のタレント契約書・芸能界ベストセレクション・演技テキスト・ドラマ台本など

科目名	タレントマネジメントアドバンス	必修選択	選択	年次	2	担当教員	堀内　梓
学科・コース	音楽テクノロジー科・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	エイベックス･エンタテインメント株式会社　プラットフォーム事業本部 / マーケティングユニット / MD事業グループ / MD企画第1ユニット						
授業の学習内容	マネージャーとしての音楽業界の基礎知識を学び、実習を通して即戦力となる人材育成を行うカリキュラム。						
到達目標	音楽業界が求める人材になる為の基礎知識を身につける。 実習通して自ら調べ考える力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	本授業における目的設定の共有	事前に目的（目標）と自己PRをまとめて提出。
2	講義	ライブを取り巻く音楽業界の構造-1 基本知識	ワークシート提出
3	講義	ライブを取り巻く音楽業界の構造-2 マネタイズ	ワークシート提出
4	講義	マネージャーとは-1 基本知識	ワークシート提出
5	講義	マネージャーとは-2 企画やマネタイズ	ワークシート提出
6	講義	ブランディング戦略-1 ブランディングとは？	ワークシート提出
7	講義	ブランディング戦略-2 ブランディングとは？/プレゼンについて説明	ワークシート提出／プレゼン準備
8	講義	ブランディング戦略-3 プレゼンパート	ワークシート提出／プレゼン準備
9	講義	ブランディング戦略-4 プレゼンパート	ワークシート提出／プレゼン準備
10	講義	ブランディング戦略-5 プレゼンパート	ワークシート提出
11	講義	復習・資料ブラッシュアップ	ワークシート提出
12	講義	ブランディング戦略-6 プレゼンパート	ワークシート提出／プレゼン準備
13	講義	ブランディング戦略-7 プレゼンパート	ワークシート提出／プレゼン準備
14	講義	定期試験	ワークシート提出
15	講義	振り返り	ワークシート提出／プレゼン資料最終提出
準備学習　時間外学習		設定した目的と前週を振り返り、復習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	新人発掘&プロデュース1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネジャーコース	授業形態	講義&演習	総時間（単位）	30 (2)		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習内容	実際の今の音楽業界で活きるスキル（コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン）を、 INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期：有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 後期：発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 前期末テスト30%　積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義・演習	自己紹介（イントロ）**個人プレゼン**	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	講義・演習	仕事ってなんだろう（Aメロ）	仕事とは何か考えてきてください
3	講義・演習	音楽業界ってなんだろう（Aメロ）	音楽業界の研究をしてきてください
4	講義・演習	マネージャー/A&Rってなんだろう（Aメロ）	音楽の仕事の役割を研究してきてください
5	講義・演習	新人発掘ってなんだろう（Aメロ）**小テスト**	新人発掘の必要性を考えてきてください
6	講義・演習	ヒット分析（Bメロ）	ヒットを研究したいアーティストを選んでおいてください
7	講義・演習	ヒット分析（Bメロ）**グループワークにてプレゼン**	伝わりやすいプレゼン方法を考えてきてください
8	講義・演習	実際のスカウトに必要な要素は？（サビ）	スカウトに必要な要素を考えてきてください
9	講義・演習	スカウト実践（サビ）	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
10	講義・演習	スカウト実践（サビ）	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
11	講義・演習	スカウト実践（サビ）**グループワークにてプレゼン**	伝わりやすいプレゼンの準備をしてください
12	講義・演習	まとめ（アウトロ）	今までの総復習をしてきてください
13	講義・演習	スカウト実践（サビ）	今までの総復習をしてきてください
14	講義・演習	テストに向けて	今までの総復習をしてきてください
15	講義・演習	まとめ（アウトロ）**前期末テスト**	今までの総復習をしてきてください
準備学習　時間外学習			

【使用教科書・教材・参考書】

PC or タブレット（ネット検索用）・ノート・筆記用具

科目名	新人発掘&プロデュース2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネジャーコース	授業形態	講義&演習	総時間（単位）	30 (2)		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習内容	実際の今の音楽業界で活きるスキル（コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン）を、INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期：有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 期：発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						後
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 後期末テスト30%　積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義・(演習)	**自己紹介**（イントロ）　**個人プレゼン**	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	(講義)・演習	新人開発・育成ってなんだろう（Aメロ）	新人開発・育成とは何か調べてきてください
3	(講義)・演習	ヒット分析（育成観点から）（Aメロ）	分析したいアーティストを探してきてください
4	(講義)・演習	ヒット分析（育成観点から）（Aメロ）	分析したいアーティストを探してきてください
5	(講義)・演習	育成プラン作成（Bメロ）	自分なりの育成パターンを作成してください
6	講義・(演習)	育成プラン作成（Bメロ）　**グループワークにてプレゼン**	効果的なプレゼンを考えてきてください
7	(講義)・演習	契約について(Bメロ)	新人はどういった契約になるのか調べてきてください
8	(講義)・演習	契約について（Bメロ）　**小テスト**	後期ここまでの復習をお願いします
9	講義・(演習)	育成実践（サビ）	アーティストとの接し方をイメージしてきてください
10	講義・(演習)	育成実践（サビ）　**演習プロセス評価**	今までの演習イメージを復習してきてください
11	(講義)・演習	まとめ（アウトロ）	今までの総復習をしてきてください
12	(講義)・演習	育成実践振り返り	今までの総復習をしてきてください
13	(講義)・演習	新人発掘、そして育成とは？(振り返り)	自分なりの意見をまとめてください
14	(講義)・演習	総復習	今までの総復習をしてきてください
15	(講義)・演習	まとめ（アウトロ）　**後期末テスト**	今までの総復習をしてきてください
準備学習　時間外学習			

【使用教科書・教材・参考書】

PC or タブレット（ネット検索用）・ノート・筆記用具

科目名	舞台知識Adance1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。 30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	「明日への扉」に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	「明日への扉」に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	「明日への扉」に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	「明日への扉」で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	「明日への扉」に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	「明日への扉」小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収集し
10	講義	「明日への扉」に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無いか確認する	問題や変更があった部分を修正し提出する。
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する。	検証の際の改善点を訂正し提出。
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識Adance2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。 30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	卒業制作展で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	卒業制作展に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	卒業制作展で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	卒業制作展に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	卒業制作展で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	卒業制作展に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	卒業制作展で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	卒業制作展に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	卒業制作展小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収集しておく
10	講義	卒業制作展に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無いか確認する	問題や変更があった部分を修正し提出する
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する
13	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する	検証の際の改善点を訂正し提出
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	Webデザイン1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	福永篤太郎
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリーのグラフィック、WEBデザイナー。講師歴23年。						
授業の学習内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題(Webサイト)の出来により評価する						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2	講義	ｈｔｌｍ・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3	講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4	講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5	講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6	講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7	講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8	講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9	講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
10	講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11	講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14	講義	「明日への扉」プロモーションサイト制作にあたる企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
15	講義	「明日への扉」プロモーションサイトを制作する。	本日の授業に引き続き作成し提出
準備学習　時間外学習	各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布（次回までの宿題用）・WIX（https://ja.wix.com/）

科目名	Webデザイン2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作を行うべく、アーティストのインタヴュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。 実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知り、制作することが出来る。						
評価方法と基準	・アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作、授業内での記事作成の文章力の評価。 40% ・コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。Webコンテンツの制作作品を評価。60%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提出
2	講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3	講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4	講義	検索エンジンの引っかかり方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5	講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6	講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
7	講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
8	講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
9	講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
10	講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
11	講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
12	講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
13	講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、インタビューを行う	アーティストへのアポイントを取る、アーティスト写真があれば提出してもらう
14	講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、記事を作成・画像を編集	授業に引き続き、記事を作成し提出
15	講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、アップロードを行う	アップロード後バグが出ていないか確認
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「M-Bug WEB」http://m.shibuya.ac.jp/

科目名	文章基礎3	必修選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャー/スーパーマネージャー	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てること、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが目標です。						
評価方法と基準	課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価します。学習内容と到達目標を踏まえた上での総合判断を評価の基準とします。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方で文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	授業の総振り返り	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
15	講義	テスト	
準備学習　時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	文章基礎4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャー/スーパーマネージャー	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てること、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが目標です。						
評価方法と基準	課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価します。学習内容と到達目標を踏まえた上での総合判断を評価の基準とします。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	授業の総振り返り	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
15	講義	テスト	
準備学習　時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	Webコンテンツ制作1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー】メディアクリエーター	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		

教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修
授業の学習内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作を行うべく、アーティストのインタヴュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知り、制作することが出来る。
評価方法と基準	・アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作、授業内での記事作成の文章力の評価。 40% ・コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。Webコンテンツの制作作品を評価。60%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提出
2		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3		講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4		講義	検索エンジンの引っかかり方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5		講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6		講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
7		講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
8		講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
9		講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
10		講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
11		講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
12		講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
13		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、インタビューを行う	アーティストへのアポイントを取る、アーティスト写真があれば提出してもらう
14		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、記事を作成・画像を編集	授業に引き続き、記事を作成し提出
15		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、アップロードを行う	アップロード後バグが出ていないか確認
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「M-Bug WEB」http://m.shibuya.ac.jp/

科目名	Webコンテンツ制作2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高木　亜美
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	エディトリアルデザイナー						
授業の学習内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から記事のアップロードまでを学ぶ。						
到達目標	WEB用の画像作成（解像度、カラーモード、保存形式）ができる＝紙媒体と区別して作成できる　・Wordpressを使用した記事の制作、アップロードができる　・Illustratorから書き出したファイルをPhotoshopで加工できる						
評価方法と基準	課題提出率　40% 目標に到達されているとみなされる課題の出来具合　60%						

授業計画・内容				
1		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
2		講義	実践を用いてPhotoshopの画像解像度とカラーモードを習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
3		講義	実践を用いてPhotoshopの文字ツールとレイヤーを習得する	本日の授業を基に課題通りの文字を作成し、提出。
4		講義	実践を用いてPhotoshopの保存形式を習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
5		講義	実践を用いてWordpressの画像アップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
6		講義	Wordpress 記事の編集、画像の挿入を習得する	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく。
7		講義	Wordpressによる 記事のアップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
8		講義	Illustratorを用い保存形式・書き出し・PDFの設定方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
9		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する（画質・トリミング方法）	WEB上にアップする画像を選出しておく。
10		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する（アップ方法や画像形式）	WEB上にアップする画像を作成する。
11		講義	WEB上にアップする記事を制作する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく。
12		講義	WEB上にアップする記事を制作し実際にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認しておく。
13		講義	実際にアップした記事の修正方法・画像の再アップの方法を習得する。	WEB上で修正が有る場合修正しておくこと。
14		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の画像を作成する。	授業に引き続き画像の作成と、必要があれば撮影しに行く。
15		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の記事を作成する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく。
15		講義	「明日への扉」出演者インタビューの記事をWEB上にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認しておく。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル

科目名	Webコンテンツ制作3	必修選択	選択	年次	1	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		

教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修
授業の学習内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作が授業になります。アーティストのインタヴュー記事やブログ記事の制作。また、その際のアーティストの所属事務所やレコード会社の担当者様との連絡作業や打ち合わせなども授業の一環に含まれます。それらの実践の場での作業や経験を通じて、文章力の向上はもちろん、思考力やコミュニケーション能力も養成することが目的になります。
到達目標	実践的な文章力を身に付けることができる。併せて、アーティストや企業様との共同作業を通じてビジネスマナーを身に付けることができ、そして音楽業界はもちろん、広くエンターテインメント業界で活躍できる人材となる基礎力を習得する。
評価方法と基準	「M-Bug WEB」のコンテンツ制作の出来具合での評価 50% 授業にレポート提出を元に評価　50% ※ただし、コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、 報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 ニュース記事の考案、使用画像の選出	授業に引き続き構成を作成し提出
2		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
3		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 音楽評論記事の考案、文章の作成、使用画像の選出	授業に引き続き構成を作成し提出
4		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
5		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストブッキング、概要書の作成、企業へご連絡	授業に引き続き概要書を作成し提出
6		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
7		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
8		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロードする
9		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から検討	検討報告書を記入し提出
10		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 進級制作展アーティストへの連絡・概要書作成	授業に引き続き概要書を作成し提出
11		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
12		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
13		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロードする
14		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から検討	検討報告書を記入し提出
15		講義	進級制作展にて「M-Bug WEB」のプロモーションを行う	プロモーションに配布する資料を作成し提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「M-Bug WEB」http://m.shibuya.ac.jp/

科目名	Webコンテンツ制作4	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高木　亜美
学科・ｺｰｽ	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	エディトリアルデザイナー						
授業の学習内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から、記事のアップロードまでを学ぶ。						
到達目標	・IllustratorとPhotoshopの基本操作ができる　・IllustratorとPhotoshopで画像のトリミングができる。　・Photoshopで画像のリサイズができる　・WEBとTwitterのヘッダー、プロフィールアイコンを作成し同時に運用する方法を学ぶ。						
評価方法と基準	課題提出率　40% 目標に到達されているとみなされる課題の出来具合を評価　60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	Ｉｌｌｕｓｔｒａｔｏｒのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
2		講義	Photoshopのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
3		講義	Photoshopのリサイズ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
4		講義	Illustratorの文字ツールの使用方法を覚え、レイヤーを習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
5		講義	Illustratorにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
6		講義	Photoshopにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
7		講義	Twitterのプロフィール・アイコンを作成し、WEBサイトとの同時運用方法を習得する。	Twitter内関係各所をフォローし、拡散出来るようにしておく。
8		講義	WEBにアップするアーティストの記事を作成する。	アーティスト事務所へのアポイント・ インタビュー・インタビュー資料を貰う。
9		講義	WEBにアップするアーティストの画像を作成する。	インタビュー時に撮影しておく・資料を貰う
10		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
11		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
12		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの記事を作成する。	アーティストへのアポイント・ インタビュー・インタビュー資料を貰う。
13		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの画像を作成する。	インタビュー時に撮影しておく
14		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
15		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル

科目名	動画撮影&編集1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネージャー	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)		
教員の略歴	テイチクやコロンビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。						
授業の学習内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる（映像編集） Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる（グラフィック） 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解						
評価方法と基準	制作物評価：20% 達成度テスト（実技）：80%・達成目標なるアプリケーションの基本操作のチェック						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	カメラの種類、動画フォーマットの種類、特性、撮影技法（アングル、サイズ）動画の構成、演出について学ぶ	学生自身が持っているスマートフォンを使用して授業で学んだことを踏まえて自己紹介動画を作成し、次回提出（編集やテロップなどはいれず、失敗しても収録を止めてやり直さない）
2	演習	コンピューターに関する理解、Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、を理解する	授業で学んだ内容を復讐する
3	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集を行ううえでのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得	次週の授業から編集が始めれるように復讐する
4	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 以前撮影した自己紹介動画の取り込み方法、編集を行ううえでの構成、注意事項、ショートカットキーのの習得し編集を行う	復讐しながら自己紹介動画の作成
5	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集の際に必要な特殊効果、タイトル、テロップ、グラフィックの挿入方法を学ぶ	作品を完成させて次週提出
6	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 オーディオの編集、エフェクトの追加、BGMの追加、カラーグレーディング、動画の書き出しにおける設定、アップロード方法の習得	作品提出、総評
7	演習	【Photoshop】 作成する上でのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得、素材も元にショートカットキーの習得	次週の授業から編集が始めれるように復讐する
8	演習	【Photoshop】 動画素材も元に文字起こし等のテロップ作成方法の習得	作品を完成させて提出
9	演習	民生用カメラと業務用カメラの違い、標準的な撮影時のセッティング、照明、ホワイトバランスなどの撮影テクニック講座	授業で学んだ内容を復讐する
10	演習	メイキング撮影、インタビューでの構成、演出、のテクニック講座、明日への扉メイキング映像撮影の企画、セクション決め	今まで学んだ内容を復讐し、イベント撮影で実践出来るようにする
11	演習	今まで学んだ編集テクニックをおさらい。課題を与え時間内に完成させ、ショートカットキーやより実践的なテクニックを学ぶ	次週のテストに向けて復讐と確認
12	演習	【Photoshop】　達成度テスト　テスト解説	次週のテストに向けて復讐と確認
13	演習	【Premiere Pro】　達成度テスト　テスト解説	迷った部分を復讐する
14	演習	授業の振り返り	前期内の授業のまとめ
15	演習	テスト	
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	動画撮影&編集2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネージャー	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)		
教員の略歴	テイチクやコロンビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。						
授業の学習内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる（映像編集） Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる（グラフィック） 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解						
評価方法と基準	演習の成果（準備含め）:50%　課題の作成:50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで作成
2	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで制作、各チームつなぎ合わせ次
3	演習	明日への扉メイキング映像の編集、完成、YouTubeなどにアップロード	完成、試写、総評、制作した作品に対してのディスカッション
4	演習	撮影テクニック総復讐①構成、演出 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて構成、演出論を学ぶ	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
5	演習	撮影テクニック総復讐②撮影 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて撮影技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
6	演習	撮影テクニック総復讐③編集 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて編集技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
7	演習	SNS広告やweb広告の特徴と傾向、画コンテの読み方と作成方法について学ぶ	動画広告を視聴し情報収集
8	演習	We are TSM!イベント告知CM制作企画	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
9	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集
10	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集、完成
11	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成（昨年度の素材も使用しYouTubeなどにアップロードする）	完成、試写、総評
12	演習	We are TSM!メイキング映像の企画、セクション決め	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
13	演習	We are TSM!メイキング映像制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
14	演習	作品の振り返り	チームに分かれて他人の作品の評価
15	演習	テスト	
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートマネージメント＆ビジネスワーク1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画（プランニング）についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画（プランニング）学習を通じてマーケットリサーチの学習をを行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	時間の流れを企画する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
2	講義	企画の基本を確認する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
3	講義	企画の準備作業について理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
4	講義	地域催事の企画立案を行う	地域で行われている年間催事を調査しレポーにて提出ト
5	講義	地域催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
6	講義	野外フェスティバルの企画立案を行う	今年度開催される野外音楽フェスティバルを調査しレポートにて提出
7	講義	野外フェスティバルの企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8	講義	ビジネスモデルと企画を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9	講義	出演者をキャスティングするにはを理解する	音楽事業者協会と音楽制作者連盟について調査しレポートにて提出
10	講義	会場のタイプと仕組みを理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会について調査しレポートにて提出
11	講義	季節型催事の企画立案を行う	レジャー白書を調査しレポートにて提出
12	講義	季節型催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
13	講義	企画と調査を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14	講義	（明日への扉）を通して音楽ビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通して音楽ビジネススキルを考察する
15	講義	（明日への扉）を通してビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通してビジネススキルを考察する
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	コンサートマネージメント＆ビジネスワーク2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高田　雄貴
学科・ｺｰｽ	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画（プランニング）についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画（プランニング）学習を通じてマーケットリサーチの学習をを行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	ヒットの仕組みを知る	昨年飛び出したヒットを研究しレポートとして提出
2	講義	フェスティバル受けする出演者を知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
3	講義	同世代の企画を検証する	大学リストを作成し提出する
4	講義	全国の大学で開催されているイベント（学園祭）を調査する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
5	講義	企画を通すには、プレゼンテーション技術を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
6	講義	採用された企画を制作する（会議技法）	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
7	講義	採用された企画を制作する（ガントチャートによる作業進行管理技法）	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8	講義	予算の管理を考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9	講義	プロモーションについて検証する（広告と広報）	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
10	講義	企画における印刷媒体を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
11	講義	企画は流行を読むことから始まる	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
12	講義	スポーツイベントのビジネスモデルを知る	東京オリンピックを調査しレポートとして提出
13	講義	企画立案しプレゼンする	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉の資料の復習①
15	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉の資料の復習②
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	コンサート演出研究１	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴２６年。						
授業の学習内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1）最先端のコンサート演出、情報を知る。 2）最先端の情報の収集が出来るようになる。 3）海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．.課題提出（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	最先端コンサートに興味を持とう	最先端のコンサートについて復習レポートを作成。
2		講義	4/19-21のコーチェラフェスティバルを振り返る	コーチェラフェスティバルについて調べてレポートを作成。
3		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1992-2001、2019	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
4		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2002-2010、2018	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
5		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2011-2017	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
6		講義	コンサートとは何か？なぜ行うのか？を考える	授業内容について復習レポートを作成。
7		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有（1）	お勧めコンサートの資料を準備する。
8		講義	U2を中心に近代の演出考察	U２というバンドについて調べてレポートを作成。
9		講義	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。
10		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有（2）	お勧めコンサートの資料を準備する。
11		講義	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作成。
12		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる（1）	明日への扉の演出についてレポートを作成。
13		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる（2）	明日への扉の演出についてレポートを作成。
14		講義	日本のフェス演出/2018	日本のフェスについて調べてレポートを作成。
15		**講義・試験**	2019日本の夏フェスを振り返る。試験。	2019日本の夏フェスについてレポートを作成。
準備学習　時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサート演出研究2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1）最先端のコンサート演出、情報を知る。 2）最先端の情報の収集が出来るようになる。 3）海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．.課題提出（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。
2		講義	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。
3		講義	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。
4		講義	INTER BEE見学（開催日によって前後あり）	INTER BEEを調べてレポートを作成。
5		講義	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、Janet
6		講義	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga
7		講義	IDOL（日本除く）コンサート	IDOL（日本除く）コンサート
8		講義	コンサート機材最新情報（Lighting & Sound Americaを使用）	コンサート機材最新情報
9		講義	オリンピック開会式演出（ロンドン2012、ソチ2014）	オリンピック開会式演出（ロンドン2012、ソチ2014）
10		講義	オリンピック開会式演出（リオ2016、平昌2018）、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出（リオ2016、平昌2018）、リオ東京プレゼンテーション
11		講義	最新コンサート情報についての考察（1）	授業内容の復習レポートを作成。
12		講義	最新コンサート情報についての考察（2）	授業内容の復習レポートを作成。
13		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる（1）	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
14		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる（2）	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
15		**講義・試験**	Superbowl 2020振り返り。試験。	Superbowl 2020についてレポートを作成。
準備学習　時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本語講座 3	必修選択	選択	年次	2	担当教員	池村　雅彦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2		講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3		講義	「ごとく」を使った表現を使い分けることができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4		講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5		講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6		講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8		講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9		講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10		講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11		講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12		講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14		講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15		講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習　時間外学習			様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】 スピードマスターN1文法、新完全マスターN1語彙、その他必要に応じた資料

科目名	日本語講座 4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	池村　雅彦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2		講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3		講義	「ごとく」を使った表現を使い分けることができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4		講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5		講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6		講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8		講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9		講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10		講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11		講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12		講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13		講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14		講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15		講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習　時間外学習			様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 （Vocal Traning 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 橋元美沙 國末　慶宏
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できるD	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる□	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる□	アカペラアンサンブルを動画チェックする□
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Gt hamonic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小南　数麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ：マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-3 （Ba bassline concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取ったうえで 実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%（後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる） 理解力40%（後期に学んだ内容を説明することができる）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。（エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		講義	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。 （エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		講義	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		講義	１６ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	１６ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		講義	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		講義	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。 （エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Dr control Theory 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山　哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（8ビート）
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter2１)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（8ビート）
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter2２)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter2３)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter2４)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter2５)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（シャッフル）
13		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	振り返りとしての総復習
14		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習
15		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Key Plaing technic 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペンタトニック、オブリガートの変化を理解する。	ペンタトニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール１の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール１を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール２の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール２を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバッキングの変化を理解する。	各ジャンルでのバッキングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介１の変化を理解する。	エフェクト紹介１を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介２の変化を理解する。	エフェクト紹介２を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 （Vocal Traning 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 橋元美沙 國末　慶宏
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できるD	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-4 （Gt hamonic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小南　数麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-4 （Ba bassline concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 （Dr control Theory 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山　哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-4 （Key Plaing technic 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Vocal Leading 5）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンの復習レポート作成
11		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-3 （Gt melodic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Ba groove analize 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Dr groove maiking 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-3 （Key hamonic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-4 （Vocal Leading 7）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-4 （Gt melodic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	前期のおさらい	前期のおさらい
2		演習	マイナースケール	マイナースケール
3		演習	ハーモニックマイナースケール	ハーモニックマイナースケール
4		演習	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ
5		演習	メロディックマイナー	メロディックマイナー
6		演習	スパニッシュスケール	スパニッシュスケール
7		演習	スパニッシュジプシースケール	スパニッシュジプシースケール
8		演習	ジプシースケール	ジプシースケール
9		演習	アドリブ：モーダル	アドリブ：モーダル
10		演習	アドリブ：コーダル	アドリブ：コーダル
11		演習	アドリブ：コードの分解	アドリブ：コードの分解
12		演習	ハーモニックメソッド	ハーモニックメソッド
13		演習	メロディックメソッド	メロディックメソッド
14		演習	リズミックメソッド	リズミックメソッド
15		演習	自由演奏	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-4 （Ba groove analize 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	現代音楽におけるリズム、音色、各パートの成り立ちの抽出が主な内容で、その種類と手法、また発展や大元を体感することをテーマとする。ジャンルの違いを把握し表現をするためにビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダードミディ・ファイルを使用し授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	各ジャンルにおける歴史や背景を把握し過去と現代の各ジャンルの違いや価値観を理解することを目標とする。 自身がそのジャンルの音楽に適切だと思うフレーズを選択できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
2		講義	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-4 （Dr groove maiking 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽で頻出する難易度の高いリズムの抽出と分析が主な内容となる。幾つかの代表的な奏法を実践し、特化した技術、知識を学ぶ。ラテン音楽やジャズにも触れ総合的に音楽の理解を深めていく。						
到達目標	世界共通のリズムを習得する事を目的とし、各種練習の消化や自発的研究活動の延長線上において、様々な音楽ジャンルの要素を昇華して主体的にリズムの構築が出来る能力を身につける事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得と基礎理解	スウィング奏法（4ビート）の習得と基礎理解
2		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング	スウィング奏法（4ビート）の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング
3		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得。手足の連動性が複雑化した応用	スウィング奏法（4ビート）の習得。手足の連動性が複雑化した応用
4		演習	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出
5		演習	スネア．スリップが特徴的なファンクスタイルの実践	スネア．スリップが特徴的なファンクスタイルの実践
6		演習	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践
7		演習	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践
8		演習	JB系のファンク － Chapter55（テキスト）	JB系のファンク － Chapter55（テキスト）
9		演習	セカンドライン・フィールのロック － Chapter56	セカンドライン・フィールのロック － Chapter56
10		演習	ストレート・フィールのファンク － Chapter57	ストレート・フィールのファンク － Chapter57
11		演習	バウンス・フィールのファンク － Chapter58	バウンス・フィールのファンク － Chapter58
12		演習	6/8フィールのファンク・ロック　－ Chapter59	6/8フィールのファンク・ロック　－ Chapter59
13		演習	ラテン・フィールのファンク － Chapter60	ラテン・フィールのファンク － Chapter60
14		演習	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用
15		演習	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-4 （Key hamonic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1年時、2年前期に習得した実技や理論をさらに発展させて現場でも使えるようにしていく。 より複雑なコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	循環コードの説明4-5-6-3	循環コードの説明4-5-6-3
2		演習	前週からのテンションノート１	前週からのテンションノート１
3		演習	テンションノート２	テンションノート２
4		演習	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法
5		演習	ペンタトニック、リフ	ペンタトニック、リフ
6		演習	Rock でのriff	Rock でのriff
7		演習	ブルースのコード進行	ブルースのコード進行
8		講義	テンションノートを使用したソロワーク	テンションノートを使用したソロワーク
9		講義	楽譜の読み方（現場へ出るための再確認）	楽譜の読み方（現場へ出るための再確認）
10		演習	オンコードの説明	オンコードの説明
11		演習	ディミニッシュ、オーギュメントの説明	ディミニッシュ、オーギュメントの説明
12		演習	ロクリアンの説明	ロクリアンの説明
13		講義	エフェクト紹介１	エフェクト紹介１
14		講義	エフェクト紹介２	エフェクト紹介２
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 （Vocal Leading 6）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンの復習レポート作成
11		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 （Gt chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	もとの調のドミナント→転調後のドミナント　転調の種類	もとの調のドミナント→転調後のドミナント　転調の種類
2		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
3		講義	同主調への転調（短3度、長6度）	同主調への転調（短3度、長6度）
4		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
5		講義	. 属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）①	. 属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）①
6		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
7		講義	. 属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）②	. 属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）②
8		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
9		講義	M7コードの説明	M7コードの説明
10		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
11		講義	７コードの説明	７コードの説明
12		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
13		講義	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。
14		講義	前期項目の復習	前期項目の復習
15		講義	期末テスト実施と復習	期末テスト実施
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-3 （Ba chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
2		講義	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽と復習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-3 （Percussion 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		演習	前期実施項目の復習と復習	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 （Key chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-4 （Vocal Leading 8）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Gt chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-4 （Ba chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-4 （Percussion 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割（アンサンブルスタンス）を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Key chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Semi Private Lesson 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	榎本　弘幸 奥　出矢 佐藤　敦 有田　清幸 小林　幸恵
学科・コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。						
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタトニックスケールの5パターン、ダイヤトニックアルペジオの使い方、ソロ奏法ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。
2		演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法 の復習を行い実演する。
3		演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
4		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
5		演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
6		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
7		演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
8		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
9		演習	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
10		演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
11		演習	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギゥメントアルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギゥメントアルペジオ使い方の復習を行い実演する。
12		演習	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
13		演習	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
14		演習	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
15		演習	試験	試験
準備学習　時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Semi Private Lesson 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	榎本　弘幸 奥　出矢 佐藤　敦 有田　清幸 小林　幸恵
学科・コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏バリエーションを学ぶ。						
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々なスタイルの楽曲を様々なキーで演奏する。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	譜面の読み方、パート作りを行い書く写すことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書く写し譜面作成する。
2		演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのバリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、８ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース＋ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		演習	シンコペーションと分数コードの理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14		演習	6/8拍子のロックスタイルの理解しKey=CMのレゲエスタイル曲の演奏する。	6/8拍子のロックスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
15		演習	テスト	テスト
準備学習　時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Song Writing 3	必修選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM（デスクトップミュージック）にて楽曲を完成させれるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとこを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	基本的なトライアドの理解	１２音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	１２音階のダイアトニックコード演奏 できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別し コード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。 ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドⅡmを取り入れる	リレイテッドⅡmとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲（Ⅰ-Ⅵm-Ⅳ-Ⅴ）のアナライズ	スタンドバイミーを聴いて採譜する
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係性を理解する
8		試験	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを３つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し３パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		試験	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Song Writing 4	必修選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚（明るい、暗い）の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM（デスクトップミュージック）にて楽曲を完成させれるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを３種類授業外で作成
3		演技	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演技	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういうジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		試験	ロック、バラード、ポップスの３曲 のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアナライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなど メロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演技	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演技	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演技	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演技	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演技	トラックメイカー目線でのミックスを学びり色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを実際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	イベント制作・運営演習5	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する　※応用編	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ　※応用編	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ　※応用編	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ　※応用編	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ　※応用編	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7		演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8		演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9		演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10		演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11		演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）　※応用編	実践的に各セクションに取り組む
13		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）　※応用編	実践的に各セクションに取り組む
14		演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15		演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	イベント制作・運営実習6	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	ZEPPTOKYOで行われる卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ　※応用編	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ　※応用編	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ　※応用編	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ　※応用編	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要とコンセプト内容を学ぶ　制作：公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7		演習	運営：座席管理方法を学ぶ　制作：公演演出の流れを理解し機材の管理を行う　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8		演習	運営：運営マニュアルの作成方法を学び作成する　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9		演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10		演習	運営：運営方法を学び作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11		演習	運営：運営マニュアルの読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する　※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12		演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13		演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14		演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15		演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	動画撮影＆編集3	必修選択	選択	年次	3	担当教員	鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネージャー	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)		
教員の略歴	テイチクやコロンビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。						
授業の学習内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる（映像編集） Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる（グラフィック） 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解						
評価方法と基準	制作物評価：20% 達成度テスト（実技）：80%・達成目標なるアプリケーションの基本操作のチェック						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	カメラの種類、動画フォーマットの種類、特性、撮影技法（アングル、サイズ）動画の構成、演出について学ぶ	学生自身が持っているスマートフォンを使用して授業で学んだことを踏まえて自己紹介動画を作成し、次回提出（編集やテロップなどはいれず、失敗しても収録を止めてやり直さない）
2	演習	コンピューターに関する理解、Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、を理解する	授業で学んだ内容を復讐する
3	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集を行ううえでのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得	次週の授業から編集が始めれるように復讐する
4	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 以前撮影した自己紹介動画の取り込み方法、編集を行ううえでの構成、注意事項、ショートカットキーのの習得し編集を行う	復讐しながら自己紹介動画の作成
5	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集の際に必要な特殊効果、タイトル、テロップ、グラフィックの挿入方法を学ぶ	作品を完成させて次週提出
6	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 オーディオの編集、エフェクトの追加、BGMの追加、カラーグレーディング、動画の書き出しにおける設定、アップロード方法の習得	作品提出、総評
7	演習	【Photoshop】 作成する上でのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得、素材も元にショートカットキーの習得	次週の授業から編集が始めれるように復讐する
8	演習	【Photoshop】 動画素材も元に文字起こし等のテロップ作成方法の習得	作品を完成させて提出
9	演習	民生用カメラと業務用カメラの違い、標準的な撮影時のセッティング、照明、ホワイトバランスなどの撮影テクニック講座	授業で学んだ内容を復讐する
10	演習	メイキング撮影、インタビューでの構成、演出、のテクニック講座、明日への扉メイキング映像撮影の企画、セクション決め	今まで学んだ内容を復讐し、イベント撮影で実践出来るようにする
11	演習	今まで学んだ編集テクニックをおさらい。課題を与え時間内に完成させ、ショートカットキーやより実践的なテクニックを学ぶ	次週のテストに向けて復讐と確認
12	演習	【Photoshop】 達成度テスト　テスト解説	次週のテストに向けて復讐と確認
13	演習	【Premiere Pro】 達成度テスト　テスト解説	迷った部分を復讐する
14	演習	授業の振り返り	前期内の授業のまとめ
15	演習	テスト	
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	動画撮影＆編集4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネージャー	授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)		
教員の略歴	テイチクやコロンビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。						
授業の学習内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる（映像編集） Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる（グラフィック） 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解						
評価方法と基準	演習の成果（準備含め）:50%　課題の作成:50%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで作成
2	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで制作、各チームつなぎ合わせ次
3	演習	明日への扉メイキング映像の編集、完成、YouTubeなどにアップロード	完成、試写、総評、制作した作品に対してのディスカッション
4	演習	撮影テクニック総復讐①構成、演出 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて構成、演出論を学ぶ	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
5	演習	撮影テクニック総復讐②撮影 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて撮影技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
6	演習	撮影テクニック総復讐③編集 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて編集技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
7	演習	SNS広告やweb広告の特徴と傾向、画コンテの読み方と作成方法について学ぶ	動画広告を視聴し情報収集
8	演習	We are TSM!イベント告知CM制作企画	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
9	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集
10	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集、完成
11	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成（昨年度の素材も使用しYouTubeなどにアップロードする）	完成、試写、総評
12	演習	We are TSM!メイキング映像の企画、セクション決め	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
13	演習	We are TSM!メイキング映像制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
14	演習	作品の振り返り	チームに分かれて他人の作品の評価
15	演習	テスト	
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	PCスキルアップ4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース						

教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務
授業の学習内容	1年時に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 （1）Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 （2）Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 （3）Adobe Illustratorの応用方法を習得する。
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．筆記試験（%）：0% 3．.課題（%）：50%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Premiere】基本的な概念を習得する。	基礎の仕組みを覚え、慣れておく。
2		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する。	授業で使用する音源・歌詞を用意し提出。
3		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する。	機能の復習として作品制作内歌詞を入力しておく。
4		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する。	機能の復習として作品制作内画像・動画を挿入しておく。
5		講義	【Premiere他】Illustrator・photoshopとの連携を習得する。	機能の復習として作品制作内でIllustrator・photoshopの要素を入れ込む。
6		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する。	機能の復習として作品制作内レンダリングしておく。
7		講義	【Premiere】Lyric Video製作を通して書き出し・仕上げを習得する。	YouTubeにてアップする。
8		講義	【Premiere】動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・QT録画を習得する。	次回の授業用に、複数人で1つの被写体を同時に録画してくる。
9		講義	【Premiere】動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する。	スローモーション、早回しをしたら良さそうな素材を撮影してくる。
10		講義	【Premiere】動画作成を課題に速度調整を習得する。	単色の背景の前での動画素材を撮影してくる。
11		講義	【Premiere】動画作成を課題にクロマキーを習得する。	クロマキー合成のクオリティーを上げた編集を再度しておく。
12		講義	【Premiere】動画作成を課題にアフレコを習得する。	作品制作のプランニングをし、絵コンテを描いてくる。
13		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（素材の回収（必要であれば撮影））	授業内で出来なかった部分を各自進める。
14		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（動画編集）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
15		講義	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（書き出し・盤面印刷）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

インターネット＆ホームページ

科目名	PCスキルアップ5	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習内容	1年時に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 （1）Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 （2）Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 （3）Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．筆記試験（%）：0% 3．.課題（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り（構成・作品傾向の解説）	ポートフォリオの作成の為の素材を集める
2		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り（作成に伴う効果的なエフェクトを知る）	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
3		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
4		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	カラーの印刷機で実際に使用できるように印刷しておく
5		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえチラシの作成を進める
6		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	チラシ作成を進めつつ、機能の復習も進める
7		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成（コピー）を通じてスキルアップと復習	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
8		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	月に合った素材を集めておく。
9		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
10		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	Photoshop ・Illustratorの機能の復習を踏まえ表紙の作成を進める
11		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
12		講義	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
13		講義	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
14		講義	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
15		講義	【PowerPoint】卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

インターネット＆ホームページ・Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6

科目名	コンサート演出研究1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1）最先端のコンサート演出、情報を知る。 2）最先端の情報の収集が出来るようになる。 3）海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．.課題提出（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	最先端コンサートに興味を持とう	最先端のコンサートについて復習レポートを作成。
2		講義	4/19-21のコーチェラフェスティバルを振り返る	コーチェラフェスティバルについて調べてレポートを作成。
3		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1992-2001、2019	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
4		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2002-2010、2018	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
5		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2011-2017	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
6		講義	コンサートとは何か？なぜ行うのか？を考える	授業内容について復習レポートを作成。
7		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有（1）	お勧めコンサートの資料を準備する。
8		講義	U2を中心に近代の演出考察	U2というバンドについて調べてレポートを作成。
9		講義	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。
10		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有（2）	お勧めコンサートの資料を準備する。
11		講義	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作成。
12		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる（1）	明日への扉の演出についてレポートを作成。
13		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる（2）	明日への扉の演出についてレポートを作成。
14		講義	日本のフェス演出/2018	日本のフェスについて調べてレポートを作成。
15		講義・試験	2019日本の夏フェスを振り返る。試験。	2019日本の夏フェスについてレポートを作成。
準備学習　時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサート演出研究2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1）最先端のコンサート演出、情報を知る。 2）最先端の情報の収集が出来るようになる。 3）海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1．実技試験（%）：50% 2．.課題提出（%）：50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。
2		講義	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。
3		講義	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。
4		講義	INTER BEE見学（開催日によって前後あり）	INTER BEEを調べてレポートを作成。
5		講義	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、Janet
6		講義	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga
7		講義	IDOL（日本除く）コンサート	IDOL（日本除く）コンサート
8		講義	コンサート機材最新情報（Lighting & Sound Americaを使用）	コンサート機材最新情報
9		講義	オリンピック開会式演出（ロンドン2012、ソチ2014）	オリンピック開会式演出（ロンドン2012、ソチ2014）
10		講義	オリンピック開会式演出（リオ2016、平昌2018）、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出（リオ2016、平昌2018）、リオ東京プレゼンテーション
11		講義	最新コンサート情報についての考察（1）	授業内容の復習レポートを作成。
12		講義	最新コンサート情報についての考察（2）	授業内容の復習レポートを作成。
13		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる（1）	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
14		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる（2）	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
15		講義・試験	Superbowl 2020振り返り。試験。	Superbowl 2020についてレポートを作成。
準備学習　時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プランニング＆プレゼンテーション3	必修選択	選択	年次	3	担当教員	伊波　達也
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリー編集者＆ライター　JICC出版局（現・宝島社）にて『バンドやろうぜ』『宝島』ほか編集業務に従事。フリーランス後は、音楽雑誌。カルチャー誌、単行本、新書ほかで編集・ライティングに従事中						
授業の学習内容	企画立案は、あらゆるクリエイティブワークにとっての大本になるスキルです。出版、映像、商品開発、イベントほか何を作るにも企画書作成はマストの作業です。そのスキルをさまざまな企画立案ワークショップを通じて、身につけてもらいます。同時に、立案した企画を相手に伝えるプレゼンテーションも重要です。企画をプレゼンテーションするスキルを身につけるために、さまざまなプレゼンテーションをしてもらいます。企画立案のできるクリエイターになってもらうための座学、ワークショップ、プレゼンテーションを組み合わせて授業を展開していきます。1コマ目は座学。2コマ目はプレゼンテーションが基本となります。						
到達目標	企画立案ということについて理解します。実際に企画書をかけるようになります。企画をわかりやすく伝えるプレゼンテーションができるようになります。自分の立案した企画について、常に見直し、手を加え、バージョンアップできるようになります。						
評価方法と基準	前期課題のオリエンテーションを7週目でおこない、12週目で提出＆プレゼンテーションをおこないます。13週目に講評とまとめをおこない、評価の6割は前期課題で行います。残りの4割は毎週のワークショップによる評価とします。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	当講義内容と習得出来る知識・技術を理解させる。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツを構想する。
2		講義	企画立案とクリエティブワークを実施する。	本日の授業の上でプレゼンテーションしたいコンテンツの資料を調べておく。
3		講義	プレゼンテーションの必要性と社会的効果を学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいプレゼン資料を構想する。
4		講義	構成（プロット）について学び、企画書作成に取り掛かる。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
5		講義	プレゼンテーション内での「企画書」と概要書の役割を担う「企画書」の違い、特徴や意味	本日の授業の上で意味合いの違う2種類の企画書を作成し提出。
6		講義	ターゲットのプロファイリングの必要性を学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツのターゲット層をプロファイリングして提出
7		講義	宣伝プロモーションとは何かを伝え、必要性と各媒体効果を学ぶ。	本日の授業の上で自分の企画のプロモーション案を考案し提出。
8		講義	マーケティングの必要性を学ぶ。	本日の授業の上でコンテンツ読者からどのようなことが求められているか考察し提出。
9		講義	クリエイティブな仕事とは、働き方や日頃の生活における観点を学ぶ。	本日の授業の上で最近のコンテンツから気になった点を考察し、改善案を提出する。
10		講義	競合商品について考案し、個としてのコンテンツに成るまでを学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツの競合商品を調べて提出。
11		講義	メディアの特性を理解する。	紙媒体での広告とSNS上の広告の特性・ターゲット層を考察し提出。
12		講義	「明日への扉」に出演するアーティストをピックアップし企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
13		講義	「明日への扉」出演アーティストへの取材原稿を作成、アポイントを取る。	授業外でも引き続きアーティストとアポイントを取る。
14		講義	コンテンツにおけるプロモーション案を考案して作成。	提出されたプロモーション案を基に実行していく。
15		講義	「明日への扉」出演アーティストへの取材をもとに作品を作成。	授業に引き続き広告を作成し、提出。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】　その都度、臨機応変にプリント配布や参考文献の紹介

科目名	プランニング＆プレゼンテーション4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	伊波達也
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリー編集者＆ライター　JICC出版局（現・宝島社）にて『バンドやろうぜ』『宝島』ほか編集業務に従事。フリーランス後は、音楽雑誌。カルチャー誌、単行本、新書ほかで編集・ライティングに従事中						
授業の学習内容	あらゆるクリエイティブワークにとっての大本になるスキルである企画について、理解してもらったところで、後期は自分の作ってみたい作品の企画書を作成してもらいます。通常は出版企画ですが、学生の要望に応じて、映像、商品開発、イベントほか何の企画でもオッケーです。最終的に企画書として仕上げることはもちろんですが、企画書に盛り込むさまざまな項目について、考え、調べ、まとめるということを体験してもらうことに重点をおいていきます。前期同様、毎時間、単発企画のプレゼテーションをおこなってもらいます。1コマ目は座学と企画書作成のためのワークショップ。2コマ目はプレゼンテーションをおこないます。						
到達目標	前期で理解した企画立案について企画書作りを通じて大切さをさらに理解できます。自分の作りたい作品を企画書をかけるようになります。さらにプレゼンテーションをブラッシュアップします。						
評価方法と基準	後期課題のオリエンテーションを1週目でおこない、12週目で提出＆プレゼンテーションをおこないます。13週目に講評とまとめをおこない、評価の6割は後期課題でおこないます。残りの4割は毎週のワークショップによる評価とします。これは前期同様です。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	当講義内容と習得出来る知識・技術を理解させる。	企画のテーマを告知し企画構成を作成し提出。
2		講義	自分の作る作品のテーマを考察し企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
3		講義	作品をめぐるマーケティングを実施、作品の上でヒントとなる資料やサイト	資料となるサイトに対しての評価を調べて信憑性や類似するサイトを調べる。
4		講義	想定競合作品の研究、同業種でターゲット層が同じものを見つけ分析する	本企画以外でターゲット層が好むアーティストや文化、趣味・趣向を検索し提出。
5		講義	想定ユーザーを定め、本作品が個となるための特徴があるか、需要が有	検証したものを資料にまとめて提出。
6		講義	講義5を踏まえコンセプトを決める。	初回企画書がコンセプトのテーマに沿っているか、沿っていない場合は手直し提出。
7		講義	作品の宣伝プロモーション、マーケティングの必要性と媒体効果を調べる。	本日の講義を聞いて本作品をプロモーションするにあたり最適な媒体はどこか考察して
8		講義	前回の講義を踏まえ広告を作成する。	授業に引き続き広告のデザインを作成し、提出。
9		講義	作品の目次・プロットの役割や意味合いを理解する。	自身の作品に目次・プロットを作成し提出。
10		講義	原稿・絵コンテ・パースを仕上げる。	授業に引き続き原稿を作成し提出。自身の作品をターゲット層に見てもらい感想を貰う。
11		講義	他者からの評価より想定していたテーマが理にかなっているか検証する。	他己評価を受けての感想を800字以内のレポートにまとめて提出。
12		講義	卒業制作展に出演するアーティストをピックアップし企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
13		講義	卒業制作展出演アーティストへの取材原稿を作成、アポイントを取る。	授業外でも引き続きアーティストとアポイントを取る。
14		講義	コンテンツにおけるプロモーション案を考案して作成。	提出されたプロモーション案を基に実行していく。
15		講義	卒業制作展出演アーティストへの取材をもとに作品を作成。	授業に引き続き広告を作成し、提出。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】　その都度、臨機応変にプリント配布や参考文献の紹介

科目名	チーム制作プロジェクトE （チーム制作プロジェクト9）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田　雄貴
		授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
学科・ｺｰｽ	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース						
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	プロジェクトの進め方	プロフィールシートの作成
2		演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	打合せ準備資料の作成
3		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
4		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
5		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
6		演習	ライブイベントを記録する（映像収録とWEB）	ライブ映像の編集処理
7		演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	運営マニュアルの作成
8		演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
10		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
11		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
12		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
13		演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]	運営マニュアルの作成・読み合わせ
14		演習	オーディションイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
15		演習	オーディションイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	ライブ映像の編集処理
			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクトE （チーム制作プロジェクト10）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	新年度オリエンテーション(アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞、討論)	新入生歓迎ライブの打ち合わせ
2		演習	新入生歓迎ライブの運営・制作。	運営マニュアルの事前読み合わせ
3		演習	エンタメ施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べて提出
4		演習	エンタメ施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究を行い資料として提出
5		演習	エンタメ施設取材③(取材内容、取材方法検討)	インタビュー記事を研究し、インタビュー内容を提出
6		演習	エンタメ施設取材④(プレゼン準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表を作成し提出
7		演習	エンタメ施設取材⑤(プレゼンテーション/報告書作成)	班員にて発表シミュレーションを行う
8		演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容説明、企業紹介、担当者自己紹介)	エンタメ取材報告書を作成し提出する
9		演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	関わる企業を研究(歴史、理念、業務内容)し、資料として提出
10		演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプラン作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11		演習	企業プロジェクト④(プロモーション実践/運営マニュアル作成)	プロモーションスケジュールを作成、 運営マニュアルラフ作成
12		演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営を実践)	運営マニュアルの事前読み合わせ
13		演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書作成)	報告会で発表する内容まとめ
14		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル作成・各セクション決め
15		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル読み合わせ
準備学習　時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

DVD：MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督：バーバラ・コップ)

科目名	チーム制作プロジェクトF （チーム制作プロジェクト11）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	活動方針設定会議	会議資料準備
2		演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	打合せ準備資料の作成
3		演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
4		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
5		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
6		演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	ライブ映像の編集処理
7		演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
8		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9		演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
10		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
11		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
12		演習	ライブイベントの内容企画	企画書の作成・イベント企画打合せ
13		演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
14		演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
15		演習	年間活動内容総括会議	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクトF （チーム制作プロジェクト12）	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプラン何度も練り直し、協賛企業や後援企業獲得を目指す。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	特別講義(音楽業界人によるトークセッション)	ゲスト講師への質問事項を考えて提出する。
2		演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	企業研究(歴史、理念、業務内容)資料を提出する。
3		演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
4		演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。
5		演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。 (図面、セット図、セットリストなど)
6		演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営)□	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
7		演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
8		演習	卒業企画①(班分け/アイディアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
9		演習	卒業企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
10		演習	卒業企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
11		演習	卒業企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	卒業企画ブラッシュ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セットリストなど)
12		演習	卒業企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
13		演習	卒業企画⑥(運営シミュレーション)□	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
14		演習	卒業企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
15		演習	卒業企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

都度必要に応じて自作プリント配布

科目名	新人発掘&プロデュース3	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネジャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習内容	実際の今の音楽業界で活きるスキル（コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン）を、INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期：有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 後期：発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 前期末テスト30%　積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	自己紹介（イントロ）**個人プレゼン**	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	講義	仕事ってなんだろう（Aメロ）	仕事とは何か考えてきてください
3	講義	音楽業界ってなんだろう（Aメロ）	音楽業界の研究をしてきてください
4	講義	マネージャー/A&Rってなんだろう（Aメロ）	音楽の仕事の役割を研究してきてください
5	講義	新人発掘ってなんだろう（Aメロ）**小テスト**	新人発掘の必要性を考えてきてください
6	講義	ヒット分析（Bメロ）	ヒットを研究したいアーティストを選んでおいてください
7	講義	ヒット分析（Bメロ）**グループワークにてプレゼン**	伝わりやすいプレゼン方法を考えてきてください
8	講義	実際のスカウトに必要な要素は？（サビ）	スカウトに必要な要素を考えてきてください
9	講義	スカウト実践（サビ）	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
10	講義	スカウト実践（サビ）	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
11	講義	スカウト実践（サビ）**グループワークにてプレゼン**	伝わりやすいプレゼンの準備をしてください
12	講義	まとめ（アウトロ）	今までの総復習をしてきてください
13	講義	スカウト実践（サビ）	今までの総復習をしてきてください
14	講義	テストに向けて	今までの総復習をしてきてください
15	講義	まとめ（アウトロ）**前期末テスト**	今までの総復習をしてきてください
準備学習　時間外学習			

【使用教科書・教材・参考書】

PC or タブレット（ネット検索用）・ノート・筆記用具

科目名	新人発掘&プロデュース4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作/マネージャーコース/スーパーマネジャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習内容	実際の今の音楽業界で活きるスキル（コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン）を、INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期：有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 後期：発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 後期末テスト30%　積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	**自己紹介**（イントロ）　**個人プレゼン**	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	講義	新人開発・育成ってなんだろう（Aメロ）	新人開発・育成とは何か調べてきてください
3	講義	ヒット分析（育成観点から）（Aメロ）	分析したいアーティストを探してきてください
4	講義	ヒット分析（育成観点から）（Aメロ）	分析したいアーティストを探してきてください
5	講義	育成プラン作成（Bメロ）	自分なりの育成パターンを作成してください
6	講義	育成プラン作成（Bメロ）　**グループワークにてプレゼン**	効果的なプレゼンを考えてきてください
7	講義	契約について(Bメロ)	新人はどういった契約になるのか調べてきてください
8	講義	契約について（Bメロ）　**小テスト**	後期ここまでの復習をお願いします
9	講義	育成実践（サビ）	アーティストとの接し方をイメージしてきてください
10	講義	育成実践（サビ）　**演習プロセス評価**	今までの演習イメージを復習してきてください
11	講義	まとめ（アウトロ）	今までの総復習をしてきてください
12	講義	育成実践振り返り	今までの総復習をしてきてください
13	講義	新人発掘、そして育成とは？（振り返り）	自分なりの意見をまとめてください
14	講義	総復習	今までの総復習をしてきてください
15	講義	まとめ（アウトロ）　**後期末テスト**	今までの総復習をしてきてください
準備学習　時間外学習			

【使用教科書・教材・参考書】

PC or タブレット（ネット検索用）・ノート・筆記用具

科目名	舞台知識Adance1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。 30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	「明日への扉」に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	「明日への扉」に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	「明日への扉」に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	「明日への扉」で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	「明日への扉」に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	「明日への扉」小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを
10	講義	「明日への扉」に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無いか確認す	問題や変更があった部分を修正し提出する。
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する。	検証の際の改善点を訂正し提出。
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識Adance2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。 30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	卒業制作展で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	卒業制作展に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	卒業制作展で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	卒業制作展に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	卒業制作展で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	卒業制作展に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	卒業制作展で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	卒業制作展に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	卒業制作展小屋入り～本番までの各セクションのスケジュー
10	講義	卒業制作展に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無	問題や変更があった部分を修正し提出する
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する
13	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検	検証の際の改善点を訂正し提出
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	文章基礎5	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てることが出来るようになり、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが出来るようになる。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価。 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2		講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3		講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4		講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5		講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6		講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7		講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方で文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8		講義	起承転結を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9		講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10		講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11		講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12		講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13		講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14		講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章構成～たたきまで)	授業に続き文章を作成し提出
15		講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成（文章作成～校正・添削し完成まで）	授業に続き文章を作成し提出
準備学習　時間外学習			授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	文章基礎6	必修選択	選択	年次	3	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	前期の授業を踏まえ、より実践的な「書く」という技術の習得。具体的には「WEBコンテンツ制作」の授業と連動する形で、ビジネスメール作成や作品のレヴュー、またインタヴュー記事の作成などを通じて文章力の向上を目指します。						
到達目標	前期「文章基礎」で学んだ「書く」という技術のルールと基本構造をもとに、ビジネスの場面でも役立つ文章力を身に付けることが目標になります。「WEBコンテンツ制作」の授業とも連動した実践的な文章作成を行いつつ、構成や起承転結を意識した長めの文章も視野に入れた文章力の向上を目指します。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価。 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	例文や自分で書いた文章の要約・添削を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2		講義	新聞記事の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3		講義	新聞記事の読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4		講義	レコード会社の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5		講義	レコード会社の資料読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6		講義	映画のあらすじを要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7		講義	映画のあらすじ読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8		講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
9		講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
10		講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿（紙面媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
11		講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿（WEB媒体）原稿を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
12		講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿（紙面媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
13		講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿（WEB媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
14		講義	進級制作展観覧、レビューを書くための素材を集める	実際に会場に足を運びボイスレコーダーとメモで資料をつ
15		講義	進級制作展レビュー制作	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
準備学習　時間外学習			授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	コンサートマネージメント＆ビジネスワーク3	必修選択	選択	年次	3	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画（プランニング）についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画（プランニング）学習を通じてマーケットリサーチの学習をを行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	時間の流れを企画する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
2		講義	企画の基本を確認する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
3		講義	企画の準備作業について理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
4		講義	地域催事の企画立案を行う	地域で行われている年間催事を調査しレポーにて提出ト
5		講義	地域催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
6		講義	野外フェスティバルの企画立案を行う	今年度開催される野外音楽フェスティバルを調査しレポートにて提出
7		講義	野外フェスティバルの企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8		講義	ビジネスモデルと企画を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9		講義	出演者をキャスティングするにはを理解する	音楽事業者協会と音楽制作者連盟について調査しレポートにて提出
10		講義	会場のタイプと仕組みを理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会について調査しレポートにて提出
11		講義	季節型催事の企画立案を行う	レジャー白書を調査しレポートにて提出
12		講義	季節型催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
13		講義	企画と調査を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14		講義	イベント実践（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
15		講義	イベント実践（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	コンサートマネージメント＆ビジネスワーク4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画（プランニング）についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画（プランニング）学習を通じてマーケットリサーチの学習をを行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ヒットの仕組みを知る	昨年飛び出したヒットを研究しレポートとして提出
2		講義	フェスティバル受けする出演者を知る	本日の授業をもってレポートを800字以内
3		講義	同世代の企画を検証する	大学リストを作成し提出する
4		講義	全国の大学で開催されているイベント（学園祭）を調査する	本日の授業をもってレポートを800字以内
5		講義	企画を通すには、プレゼンテーション技術を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内
6		講義	採用された企画を制作する（会議技法）	本日の授業をもってレポートを800字以内
7		講義	採用された企画を制作する（ガントチャートによる作業進行管理技法）	本日の授業をもってレポートを800字以内
8		講義	予算の管理を考える	本日の授業をもってレポートを800字以内
9		講義	プロモーションについて検証する（広告と広報）	本日の授業をもってレポートを800字以内
10		講義	企画における印刷媒体を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内
11		講義	企画は流行を読むことから始まる	本日の授業をもってレポートを800字以内
12		講義	スポーツイベントのビジネスモデルを知る	東京オリンピックを調査しレポートとして提出
13		講義	企画立案しプレゼンする	本日の授業をもってレポートを800字以内
14		講義	イベント実践（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
15		講義	イベント実践（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	Webデザイン3	必修選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリーのグラフィック、WEBデザイナー。講師歴23年。						
授業の学習内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題(Webサイト)の出来により評価する						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2	講義	htlm・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3	講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する	配布した課題プリントを記入し次回提出
4	講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5	講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6	講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7	講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8	講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9	講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作	本日の授業に引き続き作成し提出
10	講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11	講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を	配布した課題プリントを記入し次回提出
13	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14	講義	「明日への扉」プロモーションサイト制作にあたる企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
15	講義	「明日への扉」プロモーションサイトを制作する。	本日の授業に引き続き作成し提出
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布（次回までの宿題用）・WIX（https://ja.wix.com/）

科目名	Webデザイン4	必修選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース・スーパーマネージャーコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリーのグラフィック、WEBデザイナー。講師歴23年。						
授業の学習内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題の出来により評価する						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2		講義	htlm・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3		講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4		講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5		講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6		講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7		講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8		講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9		講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
10		講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11		講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14		講義	「明日への扉」プロモーションサイト制作にあたる企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
15		講義	「明日への扉」プロモーションサイトを制作する。	本日の授業に引き続き作成し提出
準備学習　時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布（次回までの宿題用）・WIX（https://ja.wix.com/）

科目名	Webコンテンツ制作5	必修選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー】メディアクリエーター	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作を行うべく、アーティストのインタヴュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知ることが目標になります。						
評価方法と基準	授業内での記事作成の出来栄えの評価になります。ただし、コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提
2		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3		講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4		講義	検索エンジンの引っかかり方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5		講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6		講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
7		講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
8		講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
9		講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
10		講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
11		講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
12		講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
13		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、インタビューを行う	アーティストへのアポイントを取る、アーティスト写真があれば提出してもらう
14		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、記事を作成・画像を編集	授業に引き続き、記事を作成し提出
15		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、アップロードを行う	アップロード後バグが出ていないか
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「M-Bug WEB」http://m.shibuya.ac.jp/

科目名	Webコンテンツ制作6	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高木　亜美
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーター	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	エディトリアルデザイナー						
授業の学習内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から記事のアップロードまでを学ぶ。						
到達目標	WEB用の画像作成（解像度、カラーモード、保存形式）ができる＝紙媒体と区別して作成できる　・Wordpressを使用した記事の制作、アップロードができる　・Illustratorから書き出したファイルをPhotoshopで加工できる						
評価方法と基準	課題提出率・目標に到達されているとみなされる課題の出来具合						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	実践を用いてPhotoshopの画像解像度とカラーモードを習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
2		講義	実践を用いてPhotoshopの文字ツールとレイヤーを習得する	本日の授業を基に課題通りの文字を作成し、提出。
3		講義	実践を用いてPhotoshopの保存形式を習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
4		講義	実践を用いてWordpressの画像アップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
5		講義	Wordpress 記事の編集、画像の挿入を習得する	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしてお
6		講義	Wordpressによる 記事のアップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
7		講義	Illustratorを用い保存形式・書き出し・PDFの設定方法を習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
8		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する（画質・トリミング方	WEB上にアップする画像を選出しておく。
9		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する（アップ方法や画像	WEB上にアップする画像を作成する。
10		講義	WEB上にアップする記事を制作する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしてお
11		講義	WEB上にアップする記事を制作し実際にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認してお
12		講義	実際にアップした記事の修正方法・画像の再アップの方法を習得	WEB上で修正が有る場合修正しておくこと。
13		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の画像を作成する。	授業に引き続き画像の作成と、必要があれば撮影しに行く。
14		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の記事を作成する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしてお
15		講義	「明日への扉」出演者インタビューの記事をWEB上にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認してお
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル

科目名	Webコンテンツ制作7	必修選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーター	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		

教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修
授業の学習内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作が授業になります。アーティストのインタヴュー記事やブログ記事の制作。また、その際のアーティストの所属事務所やレコード会社の担当者様との連絡作業や打ち合わせなども授業の一環に含まれます。それらの実践の場での作業や経験を通じて、文章力の向上はもちろん、思考力やコミュニケーション能力も養成することが目的になります。
到達目標	実践的な文章力を身に付けることが目標になります。併せて、アーティストや企業様との共同作業を通じてビジネスマナーを身に付けることも授業の狙いになります。そして音楽業界はもちろん、広くエンターテインメント業界で活躍できる人材となる基礎力を養ってもらいたいと考えています。
評価方法と基準	「M-Bug WEB」のコンテンツ制作を踏まえての評価になります。ただし、コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。なお、筆記試験はありません。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 ニュース記事の考案、使用画像の選出	授業に引き続き構成を作成し提出
2		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
3		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 音楽評論記事の考案、文章の作成、使用画像の選出	授業に引き続き構成を作成し提出
4		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
5		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストブッキング、概要書の作成、企業へご連絡	授業に引き続き概要書を作成し提出
6		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
7		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
8		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロードする
9		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から検討	検討報告書を記入し提出
10		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 進級制作展アーティストへの連絡・概要書作成	授業に引き続き概要書を作成し提出
11		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
12		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
13		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロードする
14		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から検討	検討報告書を記入し提出
15		講義	進級制作展にて「M-Bug WEB」のプロモーション	プロモーションに配布する資料を作成し提出
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「M-Bug WEB」http://m.shibuya.ac.jp/

科目名	Webコンテンツ制作8	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高木　亜美
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーター	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	エディトリアルデザイナー						
授業の学習内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から、記事のアップロードまでを学ぶ。						
到達目標	・IllustratorとPhotoshopの基本操作ができる　・IllustratorとPhotoshopで画像のトリミングができる。　・Photoshopで画像のリサイズができる　・WEBとTwitterのヘッダー、プロフィールアイコンを作成し同時に運用する方法を学ぶ。						
評価方法と基準	課題提出率・目標に到達されているとみなされる課題の出来具合						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	Illustratorのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
2		講義	Photoshopのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
3		講義	Photoshopのリサイズ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
4		講義	Illustratorの文字ツールの使用方法を覚え、レイヤーを習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
5		講義	Illustratorにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
6		講義	Photoshopにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出
7		講義	Twitterのプロフィール・アイコンを作成し、WEBサイトとの同時運用方法を習得する	Twitter内関係各所をフォローし、拡散出来るようにしておく。
8		講義	WEBにアップするアーティストの記事を作成する。	アーティスト事務所へのアポイント・ インタビュー・インタビュー資料を貰う。
9		講義	WEBにアップするアーティストの画像を作成する。	インタビュー時に撮影しておく・資料を貰う
10		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
11		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
12		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの記事を作成	アーティストへのアポイント・ インタビュー・インタビュー資料を貰う。
13		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの画像を作成	インタビュー時に撮影しておく
14		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
15		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル

科目名	著作権5	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	[illegible]	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※マネージャー、企画、作詞、作曲などいずれも自分は誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	自己紹介と講義概要の説明	第一回目の授業は講師の自己紹介と講義の概要を伝えます。最後に宿題を提示。⇒A4一枚にまとめた物語を配布。5人のキャラクターが登場。好感の持てる順に並べます。その根拠をグループワークでを発表。自分の想像力と会話能力を実感させます。
2		講義	グループワーク。「創造」とは何か！を議論します	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権の第一歩は想像することであり、いかに想像力を発揮していないかを体験させます。また人間関係がいかに重要で不可欠であるかを体験させます。次回の課題として原盤権を講義。第三者からの制作依
3		講義	原盤権と著作権の概念を事例を通しシミュレーションする体験教室	前回の課題をグループワークで検討。当たり前を見落としていること、契約の大切さを実感させます。現代の傾向として一般化される買い取り契約を講義。宿題として買取を求めた場合を想定。
4		講義	プロデューサー、ディレクター、A&R、マネージャーの基本を学びます	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権及び権利譲渡について講義。そのうえでプロデューサー、A＆R、ディレクター等、言葉の大切さを教えます。著作権使用料と徴収の仕組み、音楽出版社とjasracの関係について講義。ある設定を提示し、j
5		講義	作家の印税収入の仕組みを学びます。JASRACと音楽出版社について等	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの必要性及び問題点を講義。海外版権について講義。ある設定を提示。海外の版権を取り扱う場合の注意点を考えさせます。
6		講義	版権とその仕組みを学ぶ　～ビートルズとサンダーバードの場合～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。キャラクタービジネスが注目された60年代をもとに権利を守ること活かすことを講義。次回の宿題として俳優のトラブルの実例を講義。どうすれば問題を回避できたか、マネージャーとは何かを考えさせます。
7		講義	もしもあなたがなマネージャーだったら！顔案権を考えます。＜女優土屋アンナの裁判事件＞	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。他人に物事を正確に伝えることの大切さを再度講義。太古の雨ごい儀式をどのようにとらえるかを考えさせます。（合理的か否か）
8		講義	雨ごいは合理的？著作権は別？論理性を考えます。	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。スポティファイと崩壊する？著作権ビジネスを考える。宿題として音楽業界の仕組みをイメージさせます。
9		講義	音楽出版社の調べ方とスポティファイを考える。自己PRを問う！	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。大きく変わる世界情勢とエンターテインメント業界を検討。今、アーティストに求められるものは何かを宿題として提示。
10		講義	世界情勢の混乱：今、アーティストのメッセージとは何か～問われる表現者の意識～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの問題点を宿題として提示。
11		講義	JASRAC信託契約の落とし穴、原盤印税とは何か	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		講義	テストと2階企画ルームで個人別面談	面談では講義へのリクエストや不満などを自由に述べてもらいます。
13		講義	前期のまとめ	前期のまとめ。面談結果及び今後の講義の概要を伝えます。
14		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
15		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	著作権6	必修選択	選択	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	著作者人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前期の総括及び後期の講義概要を説明。著作者人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし次回のグループワークとする。
2		講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するのかを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。
3		講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア（韓国と日本の演歌）の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。
4		講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優（アクター）とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。
5		講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。
6		講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト（実演家）とイベンターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。
7		講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。
8		講義	歌謡曲とJ ポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。
9		講義	YOUTUBEと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。
10		講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。
11		講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		講義	筆記テストと2階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。
13		講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義
14		講義	卒業制作展での使用楽曲の著作権を	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
15		講義	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	セッションアレンジゼミ 5	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田　隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	4月18日	講義	この授業の説明とチームの振り分け	
2	4月25日	演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3	5月9日	講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4	5月16日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5	5月30日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6	6月13日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7	6月20日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8	6月27日	講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9	7月4日	講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10	7月11日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11	7月18日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12	9月5日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13	9月12日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14	7月25日	講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15	9月26日	テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セッションアレンジゼミ　6	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田　隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月10日	講義	前期の振り返り	後期の予習
2	10月17日	演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3	10月24日	講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4	10月31日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5	11月7日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6	11月14日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7	11月21日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8	11月28日	演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9	12月5日	演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10	12月12日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11	12月19日	演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12	1月9日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13	1月16日	演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14	1月23日	講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15	2月6日	テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Funk Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三 田原　佑一 朗
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Funk Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三 田原　佑一 朗
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	國末　慶宏 大渡　亮
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rock Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	國末　慶宏 大渡　亮
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Soul &Pops Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Soul &Pops Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月7日	演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2	10月14日	演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3	10月21日	演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4	10月28日	演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5	11月11日	演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6	11月18日	演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7	11月25日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8	12月2日	演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9	12月9日	演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10	12月16日	演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11	1月20日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12	1月27日	演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13	2月3日	演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14	2月10日	演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15	2月17日	演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Original song 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	藤井　豊 眞田　将至
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作詞、アレンジの能力が必要となる。本講義では作詞の基礎とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な作詞の基礎を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	4月17日	講義	歌謡曲の考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
2	4月24日	講義	邦楽歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
3	5月8日	講義	邦楽ロック曲の考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
4	5月15日	講義	邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
5	5月29日	講義	邦楽ポップスの考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
6	6月12日	講義	邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
7	6月19日	講義	洋楽ポップスの考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
8	6月26日	講義	洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
9	7月3日	講義	洋楽ジャズの考察と実技基礎を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
10	7月10日	講義	洋楽ジャズの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
11	7月17日	講義	韻を踏む技術を習得し実践できる。	押韻している楽曲を10曲調べレポート作成
12	7月24日	講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
13	9月4日	講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
14	9月18日	講義	高度な韻を踏む技術の使い方を習得し実践できる。	作品提出準備
15	9月25日	講義	試験	作品提出
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Original song 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	藤井　豊 眞田　将至
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作詞、アレンジの能力が必要となる。本講義では作詞の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な作詞の応用を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1	10月9日	講義	歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
2	10月16日	講義	高度な邦楽歌謡曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の歌謡曲の歌詞を調べレポート作成
3	10月23日	講義	邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
4	10月30日	講義	高度な邦楽ロック曲の考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ロック曲の歌詞を調べレポート作成
5	11月6日	講義	邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
6	11月13日	講義	高度な邦楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の邦楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
7	11月20日	講義	洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
8	11月27日	講義	高度な洋楽ポップスの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上の洋楽ポップスの歌詞を調べレポート作成
9	12月4日	講義	洋楽ジャズの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
10	12月11日	講義	高度な洋楽ジャズの考察と実技応用を習得し実践できる。	20曲以上のジャズの歌詞を調べレポート作成
11	12月18日	講義	韻を踏む技術を習得し実践できる。	押韻している楽曲を10曲調べレポート作成
12	1月8日	講義	高度な歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
13	1月15日	講義	歌詞のリズムをを習得し実践できる。	歌詞を譜面におこしてみる3曲以上調べ譜面作成
14	1月22日	講義	高度な韻を踏む技術の使い方を習得し実践できる。	作品提出準備
15	2月5日	講義	試験	作品提出
準備学習　時間外学習			業界で活躍する作詞のスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】